

DP手順ハンドブック

2016年版

DP手順ハンドブック

2016年版

ディプロマプログラム (DP)
DP手順ハンドブック 2016年版

2015年9月に発行の英文原本 *Handbook of procedures for the Diploma Programme 2016* の日本語版
2015年11月発行

本資料の翻訳・刊行にあたり、
文部科学省より多大なご支援をいただいたことに感謝いたします。

注： 本資料に記載されている内容は、英文原本の発行時の情報に基づいています。日本語版発行時現在、本資料には「A8 評価の手順」と「B1a、B1b、B3～5、B7～9 各教科」のセクションのみ収載されています。その他のセクションについては、日本語翻訳が出来次第、改訂増補版として刊行される予定です。

非営利教育財団 国際バカロレア機構
(International Baccalaureate Organization)
15 Route des Morillons, 1218 Le Grand-Saconnex, Geneva, Switzerland

発行所
International Baccalaureate Organization (UK) Ltd
Peterson House, Malthouse Avenue, Cardiff Gate
Cardiff, Wales CF23 8GL, United Kingdom

ウェブサイト：www.ibo.org

© International Baccalaureate Organization 2015

国際バカロレア機構（以下、「IB」という。）は、より良い、より平和な世界の実現を目指して、チャレンジに満ちた4つの質の高い教育プログラムを世界中の学校に提供しています。本資料は、そうしたプログラムを支援することを目的に作成されました。

IBは、資料の中で利用する多様な情報源について、情報の正確さと信憑性を確認します。ウィキペディアのようなコミュニティーベースの知識源を使用する際には、特に留意します。IBは知的財産の原則を尊重し、利用する著作物すべてについて刊行前に著作権者を特定し、許諾を得るよう常に努力します。IBは、本資料で利用した著作物に対して許諾をいただいたことに感謝するとともに、誤記および遺漏がありました場合には、可能な限り早急に訂正いたします。

本資料に関するすべての権利はIBに帰属します。法令またはIB内部規則もしくは方針に明記されていない限り、IBの事前承諾書なしに、本書のいかなる部分も、形式と手段を問わず、複製、検索システムへの保存、送信を禁じます。詳しくはwww.ibo.org/copyrightをご覧ください。

IBの商品と刊行物は、IBストア (<http://store.ibo.org>) でお求めください。ご注文については、販売・マーケティング部にお問い合わせください。

電子メール：sales@ibo.org

International Baccalaureate、Baccalauréat International および Bachillerato Internacional は、
International Baccalaureate Organization の登録商標です。

IBの使命

IB mission statement

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。



IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

目次

A8 評価の手順

A8.1	I B アセスメントセンターからの送付物	1
A8.1.1	課題論文のカバーシート	1
A8.1.2	試験資材	1
A8.1.3	「言語A：文学」(SL) の 「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの口述試験	3
A8.1.4	試験問題	3
A8.2	評価用学習成果物の提出	7
A8.2.1	書式	7
A8.2.2	提出期限	7
A8.3	評価用学習成果物の郵送	9
A8.3.1	試験官またはモデレーターへの送付	9
A8.3.2	スキャンセンターへの送付	10
A8.3.3	チェックリストと確認事項	11
A8.4	試験についての教師からのフィードバック	13
A8.5	外部評価	14
A8.5.1	試験以外の評価要素	14
A8.5.2	5月と11月の試験	15
A8.5.3	「課題論文」と「知の理論」のスコア換算表	15
A8.6	予測スコア	17
A8.7	内部評価	18
A8.7.1	内部評価の要件	19
A8.7.2	内部評価の採点結果と予測スコアの提出	19
A8.7.3	モデレーション用サンプル	20
A8.7.4	モデレーション用サンプルの選び方	21

A8.7.5	例外的な学習成果物	22
A8.7.6	学習成果物を紛失した場合	23
A8.7.7	志願者が再試験を受ける場合	23
A8.7.8	内部評価：サンプルとなる学習成果物に添付する提出書類	23
A8.7.9	モデレーターへのサンプル送付	24
A8.8 モデレーション用サンプルについての科目ごとの情報		25
A8.8.1	同じサンプルでHLとSLの両レベルをモデレーションする科目	25
A8.8.2	「言語A：文学」と「言語A：言語と文学」	25
A8.8.3	「言語B」と「初級外国語」(ab initio)	25
A8.8.4	「歴史」	25
A8.8.5	「数学」(HL)	26
A8.8.6	「音楽」	26
A8.9 録音が必要となる評価		27
A8.9.1	録音についての要件	27
A8.9.2	CDの使用	28
A8.9.3	試験	28
A8.9.4	インタビューでの教師の役割	29
A8.9.5	問題への対処	29
A8.10 録画が必要な評価		30
A8.10.1	志願者の識別	30
A8.10.2	音声	30
A8.10.3	画像	31
B 教科		
B1a グループ1「言語A：文学」		32
1 「言語A：文学」(教室でのクラスを受講している生徒)		
B1a.1	資料	32
B1a.2	最終締切日の概要：2016年5月と11月の試験セッション	32
B1a.3	提供されている言語	33
B1a.4	学校のコース	33
B1a.5	学校からコースとして提供されない「言語A：文学」	35
B1a.6	記述課題	35
B1a.7	内部評価	37
B1a.8	個人口述コメントリー	37

B1a.9	個人口述プレゼンテーション	40
B1a.10	最終的な得点を算出する	41
2 「言語A：文学」（「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者）		
B1a.1	資料	42
B1a.2	最終締切日の概要：2016年5月と11月の試験セッション	42
B1a.3	利用可能な言語	43
B1a.4	学校のコース	43
B1a.5	「言語A：文学」の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者がいる学校の責任	45
B1a.6	「言語A：文学」の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コース（S L）志願者の外部評価	46
B1a.7	自己学習コース用の口述試験：自己学習コースの履修生	46
B1a.8	記述課題	49
3 「言語A：文学」（「特別リクエスト言語」）		
B1a.1	資料	51
B1a.2	特別申請手続き	51
B1a.3	コースの提案	53
B1a.4	評価：試験問題2の構成	53
B1a.5	単年度単科履修科目履修志願者（anticipated candidates）	54
B1b グループ1「言語A：言語と文学」		55
B1b.1	資料	55
B1b.2	最終締切日の概要：2016年5月と11月の試験セッション	55
B3 グループ3「個人と社会」		56
B3.1	資料	56
B3.2	最終締切日の概要：2016年5月と11月の試験セッション	58
B3.3	内部評価	58
B4 グループ4「理科」		60
B4.1	資料	60
B4.2	最終締切日の概要：2016年5月と11月の試験セッション	60
B4.3	内部評価の要件：生物、化学、物理	61
B4.4	内部評価の要件：デザイン技術	63
B4.5	内部評価の要件：「スポーツ・エクササイズ・健康科学」	66
B4.6	内部評価の要件：コンピューター科学	69
B4.7	コーディネーターの要件の概要	71
B4.8	試験の資材	72

B5	グループ5「数学」	73
B5.1	資料	73
B5.2	最終締切日の概要：2016年5月と11月の試験セッション	74
B5.3	「数学公式集」	74
B5.4	内部評価	74
B5.5	科目特有の情報	74
B7	「課題論文」(E E)	76
B7.1	現行の「指導の手引き」	76
B7.2	最終締切日の概要	76
B7.3	規則	76
B7.4	科目の利用可能性	78
B7.5	「課題論文」(E E) カバーシートの記入	80
B7.6	「課題論文」(E E) の提出	81
B7.7	予測スコアの提出	82
B8	知の理論(T O K)	83
B8.1	現行の「指導の手引き」	83
B8.2	最終締切日の概要	83
B8.3	規則	84
B8.4	知の理論(T O K) の使用言語	84
B8.5	外部評価：所定課題エッセイ(T O Kエッセイ)	84
B8.6	内部評価：プレゼンテーション	85
B8.7	予測スコアの提出	87
B9	創造性・活動・奉仕(C A S)	88
B9.1	現行の「指導の手引き」	88
B9.2	最終締切日の概要	88
B9.3	規則	88
B9.4	C A Sプログラムの承認	89
B9.5	C A Sのサンプリング	89
B9.6	C A Sのモニタリング	90
B9.7	C A Sプログラムの評価と記入	90

A8.1 IB アセスメントセンターからの送付物

A8.1.1 課題論文のカバーシート

学校から試験官宛てに課題論文を送付する際に、紙に印刷したものを送付する従来の方法から、電子形式でアップロードする方法に移行するためのシステムの開発作業が遅れています。新システムが2015年度の試験セッションのいずれか、または両方で利用が開始される場合は、IBインフォメーションシステム（IBIS）で発表します。利用が開始されるまでの間、学校は引き続き、課題論文のカバーシートを使用してください。カバーシートを使用する場合は、2015年5月の試験セッション用を2014年11月から12月にかけて、また2015年11月の試験セッション用を2015年5月に送付します。各校に送付されるカバーシートの部数は、それぞれ11月15日（5月試験）および5月15日（11月試験）の第1回登録締切日の翌日時点での各校の国際バカロレア^{ディプロマ}資格（IB資格）取得志願者数に基づいて決定されます。

A8.1.2 試験資材

筆記試験の3カ月前にあたる**2月および8月**に、試験資材のパッケージが各校宛てに発送されます。送付部数は、1月15日および7月15日の第2回登録締切日の翌日時点での各校の志願者数に基づいています。コーディネーターは、**3月中および9月中**には試験資材を受け取るものと考えてください。各校の要件に従って、以下のものが試験資材として送付されます。

- ・ 封筒
- ・ 解答用紙
- ・ グラフ用紙・方眼紙
- ・ 紐つきタグ
- ・ ポスター

試験資材のパッケージには、5月および11月の試験セッションで必要となる音楽CD、記名済みの試験のカバーシートおよび選択式問題の解答用紙（マークシート式解答用紙）は含まれていません。これらは試験問題と併せて**4月および10月**に学校に送付されます。

選択式問題の解答用紙の送付用封筒

本ハンドブックの執筆時現在で、IBは、選択式問題の解答用紙の処理方法を見直しています。解答用紙の送付用封筒と送付先に関するコーディネーターへのお知らせは、IBISで発表します。

外部評価用学習成果物の送付用封筒

この封筒には、送付先の表書きが記載されていません。この封筒は基本的に、試験答案をスキャンセンターに送るためのものですが、志願者の学習成果物（課題論文など）を試験官に送付する目的で使うこともできます。以下の点に注意してください。

- ・可能な限り、封筒1通につき答案を最低20部入れてください。ただし、当該試験の受験者が20人に達しない場合は、この限りではありません。
- ・試験の最初のカバーシートが封筒裏側の窓から見えるように入れてください。これにより、QRコードを封筒の窓からスキャンできるようになります。
- ・各封筒の裏側にある四角の枠内に、同封した答案の部数を記入してください。

解答用紙

解答用紙は、5月と11月の試験でのみ使用するものです。他の目的で使用することはできません。例えば、言語の科目の記述課題（written assignment）や記述タスク（written task）、校内で行う模擬試験や練習問題などで使用してはなりません。また、解答用紙（とグラフ用紙）は、必ず厳重に保管し、5月と11月のIBの試験に際してのみ志願者に使用を許可します。

現時点で解答用紙には以下の3種類が存在しますが、今後改訂される可能性があります。

- ・全8ページの冊子
- ・全4ページの冊子（左から右への横書き）
- ・全4ページの冊子（右から左への横書き、アラビア語、ディベヒ語、ヘブライ語、ウルドゥ語などの言語用）

志願者は受験前に、解答用紙に設問番号を記入する方法に慣れておくようにしてください。

グラフ用紙・方眼紙

グラフ用紙や方眼紙は、5月と11月の試験でのみ使用するものです。他の目的で使用することはできません。例えば、校内で行う模擬試験や練習問題などで使用してはなりません。また、解答用紙（とグラフ用紙）は、必ず厳重に保管し、5月と11月のIBの試験に際してのみ志願者に使用を許可します。

紐つきタグ

紐つきタグは、志願者が自分の試験用紙のカバーシート（青色）を答案に留めるために使用します。試験によっては、カバーシートのほかに以下のものが「答案」に含まれる場合があります。

- ・ 解答欄のついた試験問題（出願者が解答を書き込むタイプの試験問題）。これは「書き込み式」（write-on）試験問題と呼ばれることもあります。
- ・ 1冊または複数冊の解答用紙
- ・ グラフ用紙・方眼紙

ポスター

5月および11月の試験のポスターには、以下の2種類があります。

- ・ 「*Conduct of the Examinations: notice to candidates*（試験実施要綱：国際バカロレア資格取得志願者への注意事項）」
- ・ 「*Conduct of the Examinations: unauthorized material*（試験実施要綱：持込禁止物）」

これらのポスターは、試験期間前および試験期間中に、目立つ場所（できれば試験会場となる教室の外）に掲示してください。

A8.1.3 「言語A：文学」（SL）の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの口述試験

筆記試験の約2カ月前にあたる**3月および9月**に、「言語A：文学」（SL）の「学校のサポートの下で行われる自己学習（self-taught）」コースの口述試験（oral examination）の試験資料のパッケージが届きます。これは、自己学習コースの履修生が使用するもので、「パート2：精読学習」と「パート4：自由選択」に基づく口述試験の資料です。教室でのクラスを受講している生徒が受ける内部評価用の評価要素^{コンポーネント}に代わるものです。この代替口述試験では、「セクション1」（「個人口述コメントリー」）のジャンルが指定されていて、志願者は、そのジャンルに関する5つの質問の中から2つを選択します。

A8.1.4 試験問題

筆記試験の1カ月前にあたる**4月および10月**に、筆記試験で必要となる問題用紙とカバーシートなどの他の資料を含んだパッケージが宅配便で配達されます。このパッケージを受け取っても、問題用紙が入った厳封されている包みは開封しないでください。科目名、レベル、問題用紙と解答用紙の言語は、包みの窓から確認できます。問題用紙のチェックリスト（IBISで入手可能）を使用して、正しい問題用紙であること、登録された志願者数に十分な部数が入っていることを確認します。問題用紙は、包み1個につき5部入っています。

以下の問題用紙の包みには、他の試験資材も同封されています。

- ・すべての言語の「言語B」および「初級外国語」(ab initio)の「試験問題1」問題用紙——問題文冊子5部
- ・「グローバル社会の情報技術」(ITGS)(HLおよびSL)の「試験問題2」問題用紙——記事冊子5部
- ・「環境システムと社会」(SL)の「試験問題2」問題用紙——資料集冊子5部
- ・「音楽」(HL)の「試験問題1」および「音楽」(SL)の「試験問題1」問題用紙——楽譜5部
- ・「美術史」(SL)の「試験問題1」問題用紙——資料集冊子5部
- ・「古代ギリシャ・ローマ学」(SL)の「試験問題1」問題用紙——文献5部
- ・「平和紛争解決学」(SL)の「試験問題1」問題用紙——文献5部
- ・「20世紀トルコ」(SL)の「試験問題1」問題用紙——文献5部
- ・「グローバル政治」(SL)の「試験問題1」問題用紙——文献5部

また、以下の試験資材は、試験問題とは別に同封されています。

- ・「地理」(HL)の「試験問題2」および「地理」(SL)の「試験問題2」問題用紙——資料集冊子5部

「音楽」の「試験問題1」(聞き取り試験)のためのCDは、試験開始時まで厳封された包みから出してはなりません。

問題用紙の包みを確認した後、その包みと他の機密資材を校内の厳重な保管場所で管理してください。金庫や、試験問題を保管するための専用室を使用することが望まれます。金庫や保管室には常に鍵をかけて立ち入りを厳しく制限し、コーディネーターが鍵の所有者全員を把握するようにしてください。

宅配便のパッケージを確認して試験資材を厳重な保管場所に置いたら、IBISの「**Reply form: arrival of examination papers** (返信フォーム：問題用紙の受領確認)」に記入して送信してください〔フォームには「**Subject** (科目)」のタブで「**Examination Papers** (問題用紙)」を選択するとアクセスできます〕。このフォームで以下の該当するものを報告してください。

- ・ 問題用紙の不足
- ・ 問題用紙のカバーシートや選択式問題の解答用紙の不足
- ・ 破損や改ざんの証拠(エビデンス)(封が開けられていた場合は、問題用紙を取り出したり見たりせず、そのまま再度封をしてください)
- ・ 宅配便の配達や配達に関連する諸経費についての問題点

志願者が1月15日(5月試験の場合)または7月15日(11月試験の場合)よりも後に登録した場合は、上記の最初の2つのオプションについて「Yes」を選択しないでください。その志願者のためのカバーシートと問題用紙は、試験開始直前に別便で配達されます。

上記のオプションのいずれか1つにでも「Yes」が選択され、関連するコメントが記入されると、そのフォームはIBの対応が必要であるものとして認識されます。問題が解決さ

れば、学校にメールが自動送信され、I B I Sを通じて更新されたフォームにアクセスできる旨が通知されます。返信フォームに記載された問題点を処理して解決するために、コーディネーターが詳細や説明を追加するよう求められる場合があります。また、配達に関連する諸経費が発生した場合は、返信フォームにその旨を記入して、I Bの学校支援サイト「I Bアンサー」宛てに請求書や領収書のコピーをメールで送信してください。

I Bアセスメントセンターは、当該試験セッションの登録志願者がいる学校すべてから返信フォームを受信し、問題用紙がすべて受領されたことを確認します。返信フォームは、試験資材に関する問題点の報告には使用しないでください（資材に関する問題点は、I Bアンサーに報告してください）。

試験実施の直前まで、問題用紙を厳重に管理された保管場所から取り出さないでください。火事、盗難、不正アクセス、その他の状況などによって試験問題の機密性が損なわれた（またはその可能性がある）場合は、直ちにI Bアンサーに連絡してください。試験実施前に試験問題やその内容を開示することは、いかなる相手であっても固く禁じられています。これには、コーディネーターも含まれます。

試験用カバーシート

1月15日または7月15日までに登録した志願者には、各試験ごとに個人名が記載された青色の試験用カバーシートが用意されます（ただし選択式の問題用紙は例外で、これについては後述します）。カバーシートには、志願者の名前のほか、科目、レベル、試験問題が記載されます。すべての志願者に正しいカバーシートを配布する必要があります。

1月15日または7月15日以降に登録した志願者には、個人名の記載されたカバーシートはたいていの場合、問題用紙のパッケージには同封されません。これらの志願者向けのカバーシートは、登録変更がI B I Sを通じて受理され次第、メールの添付ファイルとしてコーディネーターに送信されます。緊急時は、I B I Sのライブラリーセクションに収載されている無記名のカバーシートを印刷して試験で使用できます。

各校宛ての試験用カバーシートは、試験のスケジュールと同じ順序で同封されています。ビニールのカバーを外して、上記の返信フォームを送信する前に正しいカバーシートかどうかを確認してください。

志願者には、試験開始時に必ず各自のカバーシートを配布してください。そして志願者は、印刷された自分の情報が正しいことを確認して、試験終了時に、解答したセクション、オプション、質問を記入のうえ、使用した解答用紙の部数を記入する必要があります。これらの説明は、カバーシートの表面に記載されています。志願者が試験を欠席した場合は、「欠席」の欄に×マークを入れてください。

カバーシートは紐つきタグを使って解答用紙に添付し、さらにグラフ用紙がある場合はそれも添付します。これは試験の終了時に行ってください。

選択式問題の記名済みの解答用紙

1月15日または7月15日までに登録し、かつ「理科」(グループ4)の科目で選択式問題の「試験問題1」を受験する志願者には、試験用紙のパッケージに志願者の名前が記載された黄色の解答用紙が同封されています。青色のカバーシートと同様、これらには、志願者の名前、試験セッション番号、その他の詳細があらかじめ印刷されています。

1月15日または7月15日以降に登録した志願者には、名前の記載された解答用紙はたいていの場合、試験問題のパッケージには同封されません。これらの志願者は、IBISのライブラリーセクションにある無記名の選択式問題用の解答用紙を使用してください。IBは、志願者の名前が記載された選択式問題用の解答用紙をメールで送信することはできません。

各校宛ての選択式問題の解答用紙は、試験のスケジュールと同じ順序で同封されています。ビニールのカバーを外して、返信フォームを送信する前に正しい解答用紙かどうかを確認してください。

志願者には、必ず正しい解答用紙を配布してください。試験終了時の指示は、記名済みの解答用紙の場合は表面、無記名の解答用紙の場合は裏面に記載されています。志願者が試験を欠席した場合は、「欠席」の欄に×マークを入れてください。遅れて登録した志願者が欠席した場合も(記名済みの解答用紙はありませんが)、無記名の解答用紙の「欠席」の欄に×マークを入れてください。

志願者は、選択式問題では不正解をしても減点にならないことを知っておくようにしてください。

IBディプロマプログラム試験の実施

IB資料(英語版)『*The conduct of IB Diploma Programme examination* (IBディプロマプログラム試験実施要綱)』の冊子または関連セクションのコピーを、各試験の試験監督者に提供する必要があります。試験実施日より前に十分な余裕をもってこのハンドブックを読み、試験資材がすべて揃っているようにしなければなりません。本ハンドブックに記載された情報を志願者に事前に伝え、志願者が各試験に必要な正しい用具を持参するよう確認するのは、各学校の責任です。ハンドブックはIBISのライブラリーセクションで入手できます。

A8.2 評価用学習成果物の提出

A8.2.1 書式

試験官の採点作業の負担を軽減するため、志願者がアップロード用の学習成果物を作成する際は、ダブルスペースの書式を用いることが強く推奨されます。これにより、提出された学習成果物を読む作業が容易になります。コーディネーターは、各科目の教師にこのことを伝え、教師は志願者に、IBの学習成果物をワードプロセッサで作成する際は10ポイント以上のフォントサイズを使用して、行間はダブルスペースとするのが自分のためにも有利だと指導するようにしてください。

A8.2.2 提出期限

IBアセスメントセンターは、第2回登録締切後、直ちに試験官を学校に割りあてます。このため、志願者の変更や追加は、この日までに行うことが重要です。ただし、「**の理論**」(TOK)の所定課題エッセイ(TOKエッセイ)や試験答案の大半などの特定の^{コンポーネント}評価要素については、コーディネーターが試験官に直接郵送で志願者の学習成果物を送付することはなくなりました。

志願者の学習成果物の提出に関する詳細は、採点のため〔内部評価の場合はモデレーション(評価の適正化)のため〕にいつまでに試験官の手元に届かなければならないかによって、何回かに分けて発表されます。ただし、2014年5月以降は、事実上、すべての試験答案がスキャンセンターに送られるようになり、試験官に直接送付されることはなくなります。試験答案以外の^{コンポーネント}評価要素では、紙に印刷したものではなく電子形式でアップロードするよう求められることが増えています。最新のアップロード状況については、定期的な更新情報がIBISに新着情報として表示され、コーディネーターが確認できるようになっています。

2月20日および8月20日

以下の提出に関する詳細が、IBISで発表されます。

- ・「課題論文」(EE)
- ・「言語A：言語と文学」の記述タスク(written task)
- ・「言語A：文学」の記述課題(written assignment)
- ・「文学とパフォーマンス」の記述コースワーク(written coursework)

3月15日および9月15日

以下の提出に関する要件が、I B I Sで発表されます。

- ・「演劇」(すべての^{コンポーネント}評価要素)
- ・「音楽」の音楽的関連性研究 (music links investigation)
- ・「映画」の個人研究 (independent study)
- ・「映画」のプレゼンテーション
- ・内部評価 [「学校独自シラバス」(S B S : school-based syllabus) 科目を含む]

4月15日および10月15日

試験の答案の提出に関する詳細が、I B I Sで発表されます。

A8.3 評価用学習成果物の郵送

A8.3.1 試験官またはモデレーターへの送付

連絡先の確認

I B アセスメントセンターがいったん学校に割りあてた試験官を変更しなければならない場合があります。また、試験官の住所が変わる場合もあります。この種の変更は、試験官が病気のため辞退せざるを得なくなるなど、I B のコントロールの及ばない要因で起こる事態に対応するため常に必要となります。したがって、評価用学習成果物を郵送する直前に、試験官の名前と住所を I B I S で必ず確認してください。変更が必要になった場合は、通常、I B アセスメントセンターがコーディネーターにメールで連絡します。

試験官の連絡先

試験官の通知には、各試験官の電話番号が記載されています。ただし、電話番号はあくまでもパッケージを配達する宅配業者が必要とする場合のためで、他の目的では使用しません。試験官の名前や連絡先は、教師、志願者、その保護者には教えないでください。これは秘密情報です。宛て先の住所として郵便局の私書箱を使用している試験官もいますが、宅配業者は通常、受取人の電話番号が記載されていれば郵便局止めの荷物を配達します。郵便局の私書箱を使用している試験官にパッケージを送付する際は、事前に宅配業者に配達が可能かどうかを確認するのが賢明です。宅配業者が郵便局止めの配達を取り扱っていない場合は、I B の学校支援サイト「I B アンサー」にメールで連絡して指示を仰いでください。

送付物

同じ評価要素^{コンポーネント}の評価用学習成果物はすべて、1つのパッケージにまとめて同日に試験官に送付しなければなりません。2つの異なる評価要素^{コンポーネント}の評価用学習成果物を同じ試験官に送る場合は、たとえ宅配業者を使用する場合でも、分けて送付しなければなりません。これは、同一志願者^{コンポーネント}の2つの評価要素の学習成果物が送付の途中に紛失するリスクを軽減するためです。

ある志願者が評価用学習成果物を期限までに提出せず、他の志願者の学習成果物と一緒に試験官に送付できなかった場合は、その志願者の学習成果物は送付してはなりません。考慮すべき特別な状況がなかった^{コンポーネント}のでない限り、その志願者のこの評価要素における評価は「F」となり、その科目には成績が付与されません。

送付物には、志願者の学習成果物と指定された提出書類以外の手紙や書面はいっさい同封しないでください。1人または複数の志願者に影響する特別な状況があった場合は、書式「Candidates affected by adverse circumstances（特別な事情により影響を受けた志願者）」を用いてIBアセスメントセンターに直接報告してください。

発送証明

パッケージを試験官やモデレーターに送付する際は、日付の入った発送証明を各パッケージごとに取得しておくことが重要です。パッケージが送付の途中に紛失した場合は、発送証明とそのパッケージに含まれていた（または含まれていなかった）志願者のリストを提出するよう、IBアセスメントセンターから求められます。この情報が提出されない限り、その志願者は当該科目、当該レベルについて採点の対象外となる場合があります。

A8.3.2 スキャンセンターへの送付

送付物

各校にはたいていの場合、1カ所のスキャンセンターの住所のみが通知されます。このため、複数の試験の答案をすべて一括して送付するのが適切と思えるかもしれませんが、実際にはまとめて送付すれば宅配業者がパッケージを紛失した場合の志願者の成績に与える影響のリスクが高まります。このため、コーディネーターは複数の封筒に分けて送付すべきかどうかを必ず検討しなければなりません。

送付物には、志願者の解答のカバーシートと答案以外の手紙や書面はいっさい同封しないでください。1人または複数の志願者に影響する特別な状況があった場合は、書式「Candidates affected by adverse circumstances（特別な事情により影響を受けた志願者）」を用いてIBアセスメントセンターに直接報告してください。

封筒の記入方法

解答のカバーシートが封筒裏側の窓から見えるように入れてください。可能であれば、封筒1通につき答案を最低20部入れてください。ただし、当該試験の受験者が20人に達しない場合は、この限りではありません。

志願者の答案をIBから提供された封筒に入れた後、同封した答案の部数を封筒裏側に記入してください。このための記入枠が設けられています。封筒を開ける前から封筒に入っている答案の部数がわかれば、答案の分類や処理の作業効率が高まります。

発送証明

パッケージをスキャンセンターに送付する際は、日付の入った発送証明を各パッケージごとに取得しておくことが重要です。パッケージが送付の途中で紛失した場合は、発送証明とそのパッケージに含まれていた（または含まれていなかった）志願者のリストを提出するよう、IBアセスメントセンターから求められます。この情報が提出されない限り、その志願者は当該科目、当該レベルについて採点の対象外となる場合があります。

A8.3.3 チェックリストと確認事項

送付に際しての留意点

- ・ できる限り宅配便を使用します。特に外国への送付に際しては宅配便を使用してください。トラッキングが可能で、かつ迅速な送付手段を使用しなければなりません。
- ・ 「着払い」に相当する送付手段は使用しないでください。試験官やスキャンセンターが送料を支払うことはありません。評価用学習成果物は学校に返送されます。
- ・ 税関にパッケージの価額を申告する必要がある場合は、ごくわずかな金額（1ドル相当など）を記入し、受取人に関税がかからないようにします。
- ・ 志願者の学習成果物と、必要に応じて記入した提出書類やカバーシートのみを同封します。
- ・ 締切前に到着するよう発送します。また、試験の答えは試験後 24 時間以内に発送します。
- ・ 同じ宛て先に同一科目の複数の^{コンポーネント}評価要素を送付する際は、送付の途中で紛失した場合のリスクを減らすため、別のパッケージに分けて送付してください。
- ・ 発送証明を取得し、各パッケージにどの志願者の学習成果物が含まれていたかの記録を保管します。

試験官へ直接送付する際の留意点

- ・ 志願者の学習成果物を発送する前に、試験官やその住所が変更されていないかどうかをIBISで確認します。
- ・ 試験官が郵便局の私書箱を使用している場合は、宅配業者に連絡して配達が可能かどうかを確認します。

スキャンセンターへ送付する際の留意点

- ・ I Bがスキャンセンターへの送付用に提供した封筒を使用します。
- ・ 試験の志願者が20人以上いる場合は、各封筒に答案を最低20部入れてください。
- ・ 封筒の裏側に、同封した答案の部数を記入します。このための記入枠が設けられています。
- ・ 1つの封筒には、1つの^{コンポーネント}評価要素の答案のみを入れます。例えば、「試験問題1」と「試験問題2」の答案を同じ封筒に混ぜて入れないようにしてください。ただし、同じ試験の異なる言語の答案（例えば、「試験問題1」の英語とフランス語の答案など）を同じ封筒に入れることは認められます。
- ・ 答案の最初のカバーシートが封筒裏側の窓から見えるように入れてください。これにより、スキャンセンターがQRコードを封筒の窓からスキャンして、封筒の内容物を即座に把握できるようになります。

A8.4 試験についての教師からのフィードバック

試験問題の質に関するコメントを I B に提出するよう、教師に奨励してください。コメントはすべて、該当する成績授与会議（**grade award meeting**）の際に慎重に検討されます。また、将来の試験問題の作成にあたって貴重な情報となります。コメントは、試験実施日から 28 日以内にオンラインの質問票を使って提出します。この質問票は、試験期間中、オンラインカリキュラムセンター（OCC）で入手できます。I B が教師のコメントに対して個別に回答することはできません。ただし、教師のコメントに対する全般的な回答は、当該試験セッションの科目レポートに掲載されます。

A8.5 外部評価

志願者の学習成果物を「外部評価」(external assessment) するとは、志願者の科目担当教師ではなく、IBが指名した試験官が評価することを指します〔科目担当教師による評価は「内部評価」(internal assessment) と呼ばれます〕。

A8.5.1 試験以外の評価要素

外部評価される^{コンポーネント}評価要素は、志願者の試験の答案と選択式問題の解答用紙だけではありません。以下の表は、試験官への送付かアップロードが必要となる試験以外の^{コンポーネント}評価要素の学習成果物と、その提出締切日を示しています。提出方法も記載されていますが、これは変更される場合があります（変更される場合は、IBISで発表されます）。

科目・評価要素	提出方法	最終締切日
課題論文	試験官へ送付	3月15日・9月15日
「知の理論」の所定課題エッセイ（TOKエッセイ）	アップロード	3月15日・9月15日
「言語A：文学」の記述課題（written assignment）	試験官へ送付	3月15日・9月15日
「言語A：言語と文学」の記述タスク（written task）	試験官へ送付	3月15日・9月15日
「文学とパフォーマンス」（SL）の記述コースワーク（written coursework）	試験官へ送付	3月15日・9月15日
「言語B」の記述課題（written assignment）	アップロード	3月15日・9月15日
「初級外国語」（ab initio）の記述課題（written assignment）	アップロード	3月15日・9月15日
「美術」オプションA、パートAのスタジオ制作物（studio work）	アップロード	4月10日・10月10日
「美術」オプションB、パートBの研究ワークブック（investigation workbook）	アップロード	4月10日・10月10日

科目・評価要素	提出方法	最終締切日
「音楽」の音楽的関連性研究 (musical links investigation)	試験官へ送付	4月30日・10月30日
「映画」の個人研究 (independent study) およびプレゼンテーション	試験官へ送付	4月30日・10月30日
「演劇」の実践的パフォーマンス企画 (practical performance proposal) および研究 (research investigation)	試験官へ送付	4月30日・10月30日
「言語A：文学」(SL)の「学校サポートの下で行われる自己学習」コースの口述試験 (oral examination) の録音	アップロード	5月7日・11月7日

A8.5.2 5月と11月の試験

I Bの試験監督者は、5月および11月に行われる筆記試験の実施手続きを完全に熟知していなければなりません。このため、このトピックについては別のI B資料(英語版)『*The conduct of IB Diploma Programme examinations* (I Bディプロマプログラム試験実施要綱)』が用意されており、I B I Sのライブラリーからアクセスできます。この文書には、電卓の使用や各試験で利用可能とすべき資材についての情報が記載されています。

- ・ 2015年5月の試験日程

http://xmltwo.ibo.org/publications/DP/Group0/d_0_dpyyy_vmx_1409_1/pdf/may2015examschedule_e.pdf

- ・ 2015年11月の試験日程

http://xmltwo.ibo.org/publications/DP/Group0/d_0_dpyyy_vmx_1409_1/pdf/nov2015examschedule_e.pdf

A8.5.3 「課題論文」と「知の理論」のスコア換算表

A1.2の項で説明したように、志願者は、「知の理論」(TOK)と「課題論文」(EE)の学習成果に対する評価の組み合わせによって、I B資格の最終スコアへの追加点を得ることができます。

以下の新しいスコア換算表が、2015年5月の試験セッションから導入されます。

知の理論 (TOK)・ 課題論文 (EE)	A	B	C	D	E
A	3	3	2	2	不合格
B	3	2	2	1	
C	2	2	1	0	
D	2	1	0	0	
E	不合格				

現行のスコア換算表からの変更点は以下のとおりです。

「B+C」の組み合わせが2点の加点となります（現在は1点）。

「A+E」の組み合わせが0点となり、不合格となります（現在は1点）。

A8.6 予測スコア

各科目について志願者に付与される最終成績は、7から1までの7段階で、7が最高点です。「知の理論」(TOK)と「課題論文」(EE)の成績は、AからEまでで、Aが最高です。「言語A：文学」(SL)の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースには、「予測スコア」は求められません。

予測スコア(PG：predicted grade)とは、志願者の学習成果物とIBの規準に関する知識に基づいて、その科目でその志願者が達成するであろうと教師が予想する成績です。予測スコアは、「知の理論」(TOK)と「課題論文」(EE)でも必須です。予測スコアはできる限り正確につけ、高すぎたり低すぎたりしないようにすることが重要です。

予測スコアは、成績授与会議が科目の成績分布を検討し、個別の志願者のパフォーマンスを決定する際にのみ使用されます。最終的に付与される成績と予測スコアを比較することによって、成績の妥当性が確認されます。予測スコアと成績の間に大きな開きがあった場合は、さらなる検討が行われる場合があります。1つまたは複数の^{コンポーネント}の評価要素の評価が不完全であった志願者をはじめ、特別な状況によって影響を受けた志願者については、予測スコアは使用されません。

IBは、予測スコアを志願者に開示すべきかどうかについての方針を定めていません。これは各校の裁量に委ねられています。

A8.7 内部評価

教師がOCCでハンドブックの本項および関連する科目のセクションを参照しておくことは、きわめて重要です。これにより内部評価と予測スコアの要件について精通できるようになるためです。

本項とA8.8の項では、内部評価（IA）と予測スコア（PG）の事務手続きについて説明します。この手続きは、採点の妥当性と信頼性を確認するためのものです。科目担当教師が関与する手続きであるため、教師と十分に話し合うことが不可欠です。志願者の評価と成績付与に教師が関与することは、ディプロマプログラムの評価プロセスの重要な部分です。教師は、2つの方法でこのプロセスに関与します。

- ・ 特定科目の特定レベルで志願者が完成させた学習成果物について、内部評価の採点結果を提出する。
- ・ 特定科目、特定レベルの試験セッションで各志願者が達成するであろうと予想されるスコアを提出する。

内部評価用に提出された志願者の学習成果物には教師がコメントを書き添え、採点がどのように配分されたかを説明することが奨励されています。これらのコメントが、その学習成果物を読むモデレーターにとって非常に有益な情報となるためです。

採点結果と予測スコアに加え、コーディネーターは、教師が内部評価した学習成果物のサンプルをモデレーション（評価の適正化）のために提出しなければなりません。

モデレーションのプロセスは、2段階から成ります。まず、ディプロマプログラムを提供する学校すべてに期待される標準的な方法で各校の教師が与えられた評価規準を適用しているかどうかを確認します。これは、各校から提出されたサンプル学習成果物の採点をモデレーター（外部試験官）が確認することで行われます。次に、規準の解釈方法や使用方法に違いが見られた場合は、当該科目および当該レベルの教師の採点に対して調整が加えられます。この調整は、IBアセスメントセンターが行い、同じ学習成果物に対して教師が付与した点数とモデレーターが付与した点数の違いに基づいて決定されます。モデレーション（評価の適正化）の結果として、教師の採点結果が上下に変動することもある場合、そのまま変更されないこともあります。

IBは、教師による内部評価の採点結果を志願者に開示すべきかどうかについての方針を定めていません。これは各校の裁量に委ねられています。採点結果を開示する場合は、教師のつけた点数について、IBによるモデレーション（評価の適正化）が行われることを志願者に伝えなければなりません。

評価要件が変更にならなければ、IB資格取得志願者は通常、過去に受講した科目の試験以外の^{コンポーネント}評価要素の点数を持ち越すことができます。

A8.7.1 内部評価の要件

各科目、各レベルで内部評価にあたる教師は、志願者の学習成果物が当該科目、当該レベルの要件を満たしていることを確認しなければなりません。これらの要件の詳細は、当該科目の「指導の手引き」に記載されています。

教師は、個別の科目およびレベルに対応した I B の評価規準を用いて志願者の学習成果物を評価しなければなりません。点数は、指定された最高点と最低点の間で分数や小数を用いずにつけます。また、見積もりによる点数であってはなりません。

志願者は、科目およびレベルごとの登録言語で、内部評価のすべての学習成果物を完成させなければなりません。当該科目の当該レベルで必要とされる内部評価の種類に応じて、実際に完成された学習成果物に対して評価が下されます。

学習成果物や参加の状況が不完全であっても、採点は行わなければなりません。志願者が学習成果物を提出しなかった場合は、I B I S の採点欄に「F」を入力します。その場合、その科目のそのレベルには成績が付与されません。I B は、成績交付前の任意の時点で、いずれの科目の内部評価においても、モデレーション（評価の適正化）のために追加サンプルの提出や志願者全員の学習成果物の提出を要請する権利を有しています。このためコーディネーターは、志願者全員の学習成果物とそれに関連する資料を、成績交付まで保管しておかなければなりません。

A8.7.2 内部評価の採点結果と予測スコアの提出

内部評価（I A）の採点結果と予測スコア（P G）はすべて、筆記試験の約 3 週間前にあたる **4月10日または10月10日** 必着で I B I S に提出しなければなりません（これはしばしば「I A・P G エントリー」と呼ばれています）。この日までに提出がなかった場合は、通常、I B アセスメントセンターからコーディネーターに連絡があります。内部評価の採点結果が提出されないと、その科目およびレベルの成績が付与されません。また、予測スコアが提出されないと、志願者に不利に働く可能性があります。

科目担当教師がインターネットを介して I B I S の指定エリアにアクセスし、自分が指導する科目について内部評価の採点結果と予想点数を入力することもできます。その場合は、コーディネーターが I B I S の「**School** (学校)」タブの「**School person maintenance** (教職員登録管理)」にアクセスして、教師が自分のアカウントを開設できるようにします。教師のアカウントを開設するには、名前、生年月日、国籍、メールアドレスを入力する必要があります（これらの情報は、I B I S へのアクセスを提供し、データベースのセキュリティを管理するために必要です。他の目的で使用されることはありません）。教師の情報を入力した後、内部評価と予測スコアのデータを入力できるようにする科目を指定します。これが入力されると、当該教師にメールが届き、そのメールに記載されたリンクから、教師が新規ユーザーのアカウントページにアクセスできるようになります。このページで教師がパスワードを指定してアカウントを開設します。

コーディネーターは、教師に対してアカウントへのアクセスを随時提供することができます。ただし、教師が内部評価と予測スコアのデータの入力に使用する画面は、筆記試験の3カ月前にあたる**2月1日または8月1日**以降でなければ使用できません。

コーディネーターが内部評価と予測スコアのデータを入力するのではなく、教師が直接IBISに入力する場合は、IBアセスメントセンターに送信する前に、そのデータが正しいことを必ずコーディネーターが確認しなければなりません。教師が内部評価と予測スコアのデータを直接IBに送信することはできず、コーディネーターが送信する必要があります。コーディネーターは、各科目ごとに内部評価・予測スコアの画面で「**Complete mark entry** (採点結果入力を完了)」を選択して、データを送信します。

この入力が行われると、システムが、モデレーション（評価の適正化）のためのサンプルとして試験官へ学習成果物の送付が必要となる志願者を自動的に選びます。

4月10日または10月10日までにIBISで内部評価の採点結果を提出した後、誤った点数が提出されたことが判明することもあるかもしれません。提出済みの点数はIBの裁量において修正することができますが、成績交付後は修正が受理されません。

A8.7.3 モデレーション用サンプル

内部評価のサンプルとなる学習成果物に添付する提出書類の一覧はA8.7.7の項に記載されています。このハンドブックの科目ごとの情報にも、サンプルとなる学習成果物に添える書類の情報が記載されています。

1人の教師が採点し、試験での使用言語が1言語である場合

ある科目のあるレベルで学校内の志願者全員の内部評価を1人の教師が担当した場合は、以下をモデレーターに提出します。

- ・ モデレーション（評価の適正化）用サンプルとなる学習成果物1セット
- ・ 担当教師が署名した内部評価用提出書類。これは、教師が指導したグループが1つの場合にも、複数あった場合にもあてはまります。

複数の教師が採点し、試験での使用言語が1言語である場合

ある科目のあるレベルで学校内の志願者全員の内部評価を複数の教師が担当し、ただし試験での使用言語が1言語であった場合は、あらかじめ合意した統一の採点基準に則ってすべての学習成果物を採点しなければなりません。つまり、学校内で教師同士が話し合っ、志願者の学習成果物を一緒に吟味したうえで、最終評価を下す必要があります。

同様に、HLとSLの両レベルのモデレーション（評価の適正化）を1セットのサンプルとなる学習成果物で行う科目があります（A8.8.1の項を参照）。2つのレベルを別の教師が教えた場合は、やはりその教師同士が話し合っ、あらかじめ合意した統一の採点基準に則って両レベルの採点を行うようにしなければなりません。

モデレーターへの提出物は以下のとおりです。

- ・ モデレーション（評価の適正化）用のサンプルとなる学習成果物1セット（各教師の採点例が示されているもの）
- ・ 担当教師が署名した内部評価用提出書類

試験での使用言語が複数ある場合

ある科目のあるレベルで学校内の志願者が試験での使用言語を複数登録している場合は、次のようにしてください。

- ・ 内部評価においては、各言語グループの志願者を別々に扱います。

ある科目のあるレベルで学校内の志願者が試験での使用言語を複数登録していて、複数の指導グループを複数の教師が担当し、各グループ内に試験での使用言語が複数混在している場合は、次のようにしてください。

- ・ モデレーション（評価の適正化）においては、志願者を指導グループ別ではなく、試験での使用言語別に分けます。
- ・ 試験での使用言語ごとにそれぞれの言語の教師全員が、あらかじめ合意した統一の採点基準に則って採点しなければなりません。

I B I Sでは、科目およびレベルごとに、志願者を試験での使用言語のグループに分けて表示します。モデレーターへの提出物は以下のとおりです。

- ・ 志願者が登録した試験での使用言語ごとに、サンプルとなる学習成果物1セット
- ・ 志願者が登録した試験での使用言語ごとに、担当教師が署名した内部評価用提出書類

A8.7.4 モデレーション用サンプルの選び方

内部評価の採点は、「**Subject**（科目）」タブで「**IAPG**（内部評価・予測スコア）」>「**Mark entry**（点数入力）」>「**IA Mark entry**（内部評価の採点結果入力）」を選択して入力します。採点を入力して確認した後、「**Complete mark entry**（採点結果入力を完了）」を選択すると、画面に「**View sample**（サンプルを表示）」のオプションが表示されます。これを選択すると、各科目の各レベルでサンプルとして学習成果物を提出する必要がある志願者のリストが表示されます。この画面を印刷して、サンプルに添えてモデレーターに送付します。

I B I Sには、学習成果物の提出が必要な志願者のほかに、各科目、各レベルのモデレーターの名前と住所も表示されます。また、場合によっては、I B アセスメントセンターへのサンプル送付や学習成果物のアップロードが求められることもあります〔「言語と文学」（グループ1）と「言語の習得」（グループ2）の録音など〕。

要請されるサンプルの数は、当該科目、当該レベルの学校内の志願者数によって異なります。

- ・ 志願者が5人以下の場合は、全員の学習成果物がサンプルとなります。
- ・ 志願者が6～20人の場合は、5人分の学習成果物がサンプルとなります。

- ・ 志願者が 21 ～ 40 人の場合は、8 人分の学習成果物がサンプルとなります。
- ・ 志願者が 41 人以上の場合は、10 人分の学習成果物がサンプルとなります。

A8.7.5 例外的な学習成果物

モデレーターにサンプルとして送付される学習成果物が、志願者のグループ全体に適用された採点の典型的な水準^{スタンダード}を示していることは重要です。IBISによって選ばれた志願者の学習成果物がモデレーション（評価の適正化）用のサンプルとして例外的である場合は、その志願者の学習成果物に加えて、同じまたは似たような点数となった別の志願者の学習成果物を送付してください。

サンプルに例外的な学習成果物を含める必要がある場合は、以下を行ってください。

- ・ その志願者の内部評価のカバーシートに、これが例外的な学習成果物であるとの注記を入れます。
- ・ それぞれの事例において、どのような難しさがあつたか、採点でどのような調整を行ったかを簡潔に説明します。

特別な事情（病気、障害、身内の不幸など）についての情報は、試験官やモデレーターには提供しないでください。

例外的な学習成果物のカテゴリー

「例外的」と見なされる可能性のある学習成果物の例は、以下のとおりです。

教師からの付加的な支援があつた学習成果物

内部評価用の学習成果物を完成させるにあたって教師が付加的な支援をした場合は、減点します。その場合は、減点があつた旨を学習成果物に注記してください。このような学習成果物は、その志願者の通常の学習成果物の質の水準を反映していない可能性があり、また最終的な点数も異なる可能性があることから、この注記が必要です。

未完成の学習成果物

かなりの割合にわたって未完成の学習成果物。なぜ未完成であるかの理由は問われません。

転校してきた志願者の学習成果物

転校してきた志願者の学習成果物。ただし、その志願者のすべての学習成果物が、転校後の学校の教師によって評価された場合は「例外的」とは見なされません。

採点の信頼性が低い学習成果物

教師がその学習成果物に対してどのような採点をすべきか確信を持たず、採点の信頼性が低い可能性のある学習成果物。モデレーション（評価の適正化）のプロセスは、このようなケースで教師を支援するためのプロセスではなく、教師の一般的な採点の水準をIB

の水準にすり合わせるためのプロセスです。採点方法について重大な疑問がある場合は、IBの学校支援サイト「IBアンサー」に連絡してください。

不適切な学習成果物

当該科目、当該レベルにとって適切でない学習成果物。

A8.7.6 学習成果物を紛失した場合

モデレーション（評価の適正化）用のサンプルとしてIBISによって選ばれた志願者の学習成果物が教師の採点の後に紛失した場合は、別の志願者による同じ点数または同等の点数の学習成果物を送付してください。

A8.7.7 志願者が再試験を受ける場合

志願者が再試験に登録する際、もしくは前回セッションの内部評価や他の試験以外の^{コンポーネント}評価要素の採点を持ち越すことを希望する場合は、コーディネーターがIBISでその旨を入力しなければなりません。この結果、教師やコーディネーターが使用する当該科目の内部評価の採点結果入力画面に、自動的に「H」が表示されるようになります。「H」は、採点を持ち越されることを意味します。採点を持ち越せるかどうか分からない場合は、IBISのライブラリーセクションにある関連文書を参照してください。

予測スコアには「H」は表示されません。これは、前回セッションの予測スコアを教師やコーディネーターが高いスコアあるいは低いスコアに変更したいと思う可能性があるためです。このため、予測スコアはあらかじめ入力する必要があります。予測スコアとは、内部評価だけでなく、その科目のそのレベルで志願者が全体的にどのようなパフォーマンスを達成したかを予想するものであることに留意してください。

A8.7.8 内部評価：サンプルとなる学習成果物に添付する提出書類

サンプルとなる学習成果物をモデレーターに提出する際は、サンプルそれぞれについて関連する提出書類に必要事項を記入し、**4月20日または10月20日**までに併せて必着となるよう提出しなければなりません。内部評価のサンプルをモデレーション（評価の適正化）目的で試験官に送付する場合は、サンプルに含まれる志願者のリストを表示したIBISの画面を印刷して同封する必要がなくなりました。

内部評価のサンプルに添付するフォームは、書き込み可能なPDFファイルが用意されていて、担当教師が容易に記入できるようになっています。用紙に印刷された提出書類を提出する（印刷してサンプルとなる学習成果物に添える）場合は、教師と志願者が提出書類に名前を記入し、宣誓文の個所に署名する必要があります。

提出書類の一覧および各提出書類にアクセスするには、画面上部に表示されている「Forms（書式）」のリンクをクリックしてください。

A8.7.9 モデレーターへのサンプル送付

以下の科目については、学習成果物の原本を送付してください。

- ・「個人と社会」（グループ3）——「地理」（HL・SL）、「環境システムと社会」（SL）
- ・「理科」（グループ4）——「生物」（HL・SL）、「化学」（HL・SL）、「デザイン技術」（HL・SL）、「環境システムと社会」（SL）、「物理」（HL・SL）、「スポーツ・エクササイズ・健康科学」（SL）
- ・「数学」（グループ5）——「数学スタディーズ」（SL）のプロジェクト、「数学」（SL）の探究（exploration）、「数学」（HL）の探究

学習成果物が送付の途中に紛失する可能性に備え、サンプルとなる学習成果物は、明瞭なコピーを残しておくことが重要です。他の科目はすべて、学習成果物のコピーをモデレーターに送付することができます。内部評価用の学習成果物は学校に返却できませんのでご了承ください。

特定科目の具体的な要件がない限り、サンプルと一緒にビデオテープやCDは送付しないでください。ビデオや情報技術（IT）アプリケーションが制作された場合は、その活動についてのレポートと写真のみをモデレーターに送付してください。

A8.8 モデレーション用サンプルについての科目ごとの情報

A8.8.1 同じサンプルでHLとSLの両レベルをモデレーションする科目

以下の科目は、HLレベルとSLレベルで同一または非常に似た内部評価要件を使用します。

歴史	経済	グローバル社会の情報技術 (ITGS)	生物	デザイン技術	音楽 (創作)
地理	哲学		化学	物理	音楽 (ソロパフォーマンス)

これらの科目のHLとSLが両方指導されている場合は、IBISが両レベルからサンプル学習成果物を1セット選びます。

A8.8.2 「言語A：文学」と「言語A：言語と文学」

IBISは内部評価の採点結果全体からサンプルの志願者を選びますが、コーディネーターが提出するのは、選ばれた志願者の「個人口述コメント」の録音のみです。「言語A：文学」の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者は除外されます。

A8.8.3 「言語B」と「初級外国語」(ab initio)

IBISは内部評価の採点結果全体からサンプルの志願者を選びますが、コーディネーターが提出するのは、選ばれた志願者の「個人口述」の録音のみとなります。

A8.8.4 「歴史」

IBISは、「歴史」のサンプルを選ぶ際、ルート1から1つ、ルート2から1つを選びます。レベル、地域オプション、指定学習項目は考慮されません。ただし、使用言語は考慮され、それぞれについてサンプルが別々に選ばれます。

A8.8.5 「数学」(HL)

IBISが「数学」(HL)のサンプルを選ぶ際、志願者の学習したオプションは考慮されません。

A8.8.6 「音楽」

「音楽」(HL)の内部評価には、ソロパフォーマンスと創作の2つの^{コンポーネント}評価要素があります。各^{コンポーネント}評価要素に対して別のサンプルを提出する必要があります。SLのグループパフォーマンスでは、すべての録音を提出してください。

A8.9 録音が必要となる評価

A8.9.1 録音についての要件

「言語と文学」（グループ1）と「言語の習得」（グループ2）の言語の科目（「文学とパフォーマンス」を含む）の口述を提出する際は、IBISにアップロードしなければなりません。他の科目の録音は、CDで提出します。

この要件は、以下の科目および内部評価の^{コンポーネント}評価要素で志願者のパフォーマンスや面接を録音する必要がある場合のための指示です。科目ごとのガイドラインと併せて使用してください。

- ・「言語A：言語と文学」——個人口述コメントリー
- ・「言語A：文学」——個人口述コメントリー
- ・「言語A：文学」（SL）——「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの口述コメントリー
- ・「言語B」——個人口述
- ・「初級外国語」（ab initio）——個人口述
- ・「文学とパフォーマンス」——パフォーマンスと個人口述プレゼンテーション
- ・「古典言語」——個人研究口述プレゼンテーション（individual study oral presentation）
- ・「音楽」——ソロパフォーマンス、グループパフォーマンス、創作
- ・「美術」——インタビュー（文章記述ではなく録音された場合）
- ・「演劇」——パフォーマンス、制作プレゼンテーション
- ・「映画」——プレゼンテーション

「音楽」のグループパフォーマンスで、個人の志願者ではなくグループ全体の評価が行われる場合は、録音に関する要件が必ずしもすべて適用されるわけではありません。例えば、録音の冒頭で志願者全員に名前とセッション番号を述べるよう求める必要はありません。その代わりに教師が試験セッションと学校名、学校番号、さらに録音するすべての作品の名前を録音の冒頭で述べるのが望ましいです。

録音のフォーマットが何であれ、コンテンツを編集することは認められません。編集は学問的な違反行為（misconduct）と見なされ、資格授与委員会（final award committee）に報告される場合があります。

コーディネーターは、IBに提出するフォーマットにかかわらず、すべての録音のコピーを保管しなければなりません。

A8.9.2 CDの使用

CDを提出する際は、以下のガイドラインに従ってください。

- ・ 志願者それぞれのパフォーマンスを録音する場合は、1枚のCDに複数の志願者の録音を含めることができます。ただし、モデレーション（評価の適正化）目的で試験官にサンプル録音を送付する際には、1枚につき2人までとします。この結果、試験官に送るCDが最大5枚になることもあります（複数の試験官による採点のモデレーションに際してサンプルを選ぶプロセスの便宜上、CDを分ける必要があります）。各CDにどの志願者が録音されているかを示し、できる限りその志願者のセッション番号もCDに書き添えてください。
- ・ 録音の冒頭で、各志願者は、自分の名前とセッション番号を言います。ただし、グループパフォーマンスの場合は必要ありません。
- ・ CDプレーヤーで志願者全員の録音を部分的に再生して、正しく録音されていることを確認します。試験官が使用する標準的なCDプレーヤーと互換性があることを確認するため、この再生確認に際してコンピュータのCD機能は使用しないでください。録音セッションの終了後に録音に失敗したことがわかった場合は、IBの学校支援サイト「IBアンサー」に直ちに連絡し、指示を仰いでください。パフォーマンスをやり直したり、インタビューを新たに録音したりすることができるかもしれません。
- ・ CDを使用する場合は、試験セッション、年度、科目、レベル、コンポーネント評価要素、志願者の名前、セッション番号をラベルに明記する必要があります。
- ・ CDは、IBISに記載された住所に送付します（当該科目の当該コンポーネント評価要素においてCDの使用が指定されている場合）。

A8.9.3 試験

- ・ 録音は、できる限りバックグラウンドの雑音を排除し、試験にふさわしい静かな部屋で行います。たいていは小さな部屋のほうが質の良い録音ができます。
- ・ 録音を行う部屋教室の外には、以下の注意書きを掲示します。

試験実施中。録音中につき、静かにしてください。

- ・ 外付けのマイクを使って録音します。内蔵のマイクは録音の質が良くないため、使用しないでください。
- ・ 志願者のパフォーマンスや声をはっきりと聞き取れるようにマイクの位置を調整します。面接の場合は、教師や試験官よりも志願者のそばにマイクを置くようにしてください。

- ・ 録音の冒頭で、各志願者が自分の名前とセッション番号を述べます。
- ・ 必要に応じて、試験の各セクションの間に区切りを入れ、次のセクションの開始を告知します。また、試験の終了を教えてください。

A8.9.4 インタビューでの教師の役割

教師の発言もすべて録音します。その科目にとって適切であれば、教師には以下の行動が認められています。

- ・ 必要に応じて、大きな声ではっきりと話すよう志願者に促す。
- ・ 志願者が極度に緊張してサポートが必要な場合に介入する。
- ・ 志願者が特定の部分に時間をかけすぎたり完全に的を外れていたりする場合にそれを示唆する。
- ・ ほかにつけ加えたいことがないかどうかを志願者に尋ねる。
- ・ 志願者の発言を訂正する、指導する、誘導的な質問をする、解答を示唆するといった行動は認められていません。

A8.9.5 問題への対処

- ・ 録音を途中で停止したり編集したりすることはできません。技術的な問題で録音が停止してしまった場合は、再開後にその録音内で理由を説明してください。
- ・ 志願者のせいではない問題が発生した場合は、その状況が不利に働くことはないことを説明します。録音中に変則的な事態が生じた場合は、IBの学校支援サイト「IBアンサー」に状況説明の詳細なレポートを提出してください。

A8.10 録画が必要な評価

I Bでは、音声の録音についてはDVDを試験官に送付するのではなくオンラインで提出できるようにすべく、開発を進めています。この機能が導入され次第、I B I Sで発表します。

状況は学校により異なります。また、ビデオ機器も進化していて、全般的により安価で使いやすい機器が出回るようになっています。ただし、演劇のスタジオや教室で一定の質の録画をするには、そうした録画環境に特有の問題があります。このため、ここではさまざまな場所での録画に際して役に立った基本的なコツをいくつか紹介します。絶対的な指示というわけではなく、すべての状況において適切というわけでもありません。

A8.10.1 志願者の識別

少なくとも録画の冒頭で、志願者それぞれがカメラに向かって名前とセッション番号を言うようにしてください。それでも出演者の識別が難しくなる可能性があるのであれば、(その科目に適切な限り) 洋服や衣装を変えたり、色別にしたり番号を振ったりすることを検討してください。ただし、評価のニーズを満たそうとするあまり、パフォーマンスの質や志願者の集中力を損ねる可能性がありますので、教師はその兼ね合いを考え、創意工夫と判断を働かせる必要があります。

A8.10.2 音声

音声は、画像よりも難しい問題を呈することが多々あります。学校の建物というのは硬質な壁や床を多用しているため、しばしば音が反響しやすい環境にあります。足音のしやすい床であったり、空調などの電気機器が騒音を立てることもあります。その対策として、以下のような点を考慮することができるかもしれません。

- ・ カーペットの敷かれた別の空間を使用したり、マットなどで一時的に床を覆ってみたりすることを試みます。
- ・ 硬質素材の壁や窓は、カーテンなどで覆います。
- ・ カメラの内蔵マイクではなく外付けのマイクを使用して、音源のできるだけ近くに置きます。
- ・ 可能であれば、不要な電気機器の電源を切ります。
- ・ 廊下など隣接する場所が比較的静かな時間帯を選びます。

- ・ カメラの後ろにいる人が音を立てないように注意します。ほとんどのマイクは全指向性といって近くにある音をすべて拾うよう設計されており、また周囲の一般的な音量に合わせて集音レベルを調節するためです（つまり、パフォーマンスの音量が下がると、バックグラウンドの雑音を敏感に拾うようになります）。

A8.10.3 画像

画像については、おおむね単純明快です。最近のビデオカメラは、あまり明るくない場所でもそこそこの画質を撮影することができます。ただし、明暗のコントラストが大きいとうまく対応できず、またオートフォーカスが不本意な被写体に焦点をあてることもあります。以下の点に注意してください。

- ・ 三脚は必須です。パフォーマンスの全容をとらえるため、十分な距離にカメラを置くだけのスペースがなければなりません。ただし、内蔵マイクは近くにある物音をとらえる傾向にあるため、こうすることによりパフォーマンスの音が遠ざかることに注意が必要です（このため外付けマイクの使用が推奨されます）。
- ・ 暗色の背景に舞台用のスポットライトを使用すると、コントラストが非常に高まってしまう。広域を照射するタイプの照明を検討してください（フラッドライトを使って背景を明るくするなど）。
- ・ カメラのオートフォーカス機能は、背景までの距離と前景にいる人物の間で焦点を見つけようとする傾向があります。この2つの間の距離を縮めてみてください（人物を背景の近くに下げるなど）。また、オートフォーカス機能をオフにできるカメラも多数あります。これにより、パフォーマンス中のほとんどの動きに焦点が合うようマニュアルでフォーカスを固定させられるようになります。
- ・ 例えば教室などの自然光で撮影する場合は、明るい背景に注意します。背景が明るいカメラの絞りが絞られる結果、前景（人物）が暗くなり、見えにくくなります。ブラインドやカーテンを閉めて背景（窓など）の明るさを抑えることで、通常この問題は解消できます。あるいは別の部屋を選んで、カメラが光の方向を向かないようにする（窓に向かうのではなく、窓を背景に撮影するなど）こともできます。

B1a グループ1 「言語A：文学」

1 「言語A：文学」(教室でのクラスを受講している生徒)

B1a.1 資料

ハンドブックの本項で提供される情報は、「言語A：文学」用の以下の資料と併せて読む必要があります。

2016年5月と11月の試験セッション	
資料名	発行日
I B 資料『「言語A：文学」指導の手引き』	2011年2月に発行、2011年2月、2011年11月、2012年8月、2013年8月に更新
「指定作家リスト」(PLA)	2011年2月以降 (B1a. 4.2の項を参照)
「指定翻訳作品リスト」(PLT)	2011年2月
I B 資料『「言語A：文学」教師用参考資料』	2011年5月

B1a.2 最終締切日の概要： 2016年5月と11月の試験セッション

行動	セッション	提出先	最終締切日	方法/フォーム
評価用記述課題のアップロード	2016年5月/ 2016年11月	試験官	2016年3月15日/ 2016年9月15日	フォーム1/LWAを用いてI B I Sでアップロード
予測スコアと内部評価の採点結果を提出	2016年5月/ 2016年11月	I B アセスメントセンター	2016年4月10日/ 2016年10月10日	I B I Sを通じて
内部評価のサンプルの録音(個人口述コメント)および関連資料のアップロード	2016年5月/ 2016年11月	I B アセスメントセンター	2016年4月20日/ 2016年10月20日	フォーム1/LIAとともに、抜粋および「考察を促す問い(ガイディングクエスチョン)」をI B I Sでアップロード

B1a.3 提供されている言語

A2.2の項（英語版を参照）には、2016年5月と11月、2017年5月と11月に利用可能な「言語A：文学」の科目が記載されています。「言語A：文学」で履修できない「特別リクエスト言語」への申請手続きについては、「特別リクエスト言語」のセクションを参照してください。

B1a.4 学校のコース

B1a.4.1 コースの選択

「言語A：文学」の作家と作品は、学習言語についてIBが指定した「指定作家リスト」（PLA）、およびIBが指定した「指定翻訳作品リスト」（PLT）から、学校が選択します。

すべての選択が、IB資料『「言語A：文学」指導の手引き』、学習言語のPLA、およびPLTの規則と指示に従っていることを確認するのは学校の責任です。

B1a.4.2 「指定作家リスト」

以下に記載された言語の「指定作家リスト」（PLA）は、オンラインカリキュラムセンター（OCC）で入手できます。

アフリカーンス語A	ドイツ語A	ルーマニア語A
アルバニア語A	ヘブライ語A	ロシア語A
アムハラ語A	ヒンディー語A	セルビア語A
アラビア語A	ハンガリー語A	ソト語A
ベラルーシ語A	アイスランド語A	シンハラ語A
ベンガル語A	インドネシア語A	スワジ語A
ボスニア語A	イタリア語A	スロバキア語A
ブルガリア語A	日本語A	スロベニア語A
カタルーニャ語A	韓国語A	スペイン語A
中国語A	ラトヴィア語A	スワヒリ語A
クロアチア語A	リトアニア語A	スウェーデン語A
チェコ語A	マケドニア語A	タイ語A
デンマーク語A	マレー語A	トルコ語A
オランダ語A	現代ギリシャ語A	ウクライナ語A

英語A	ネパール語A	ウルドゥー語A
エストニア語A	ノルウェー語A	ベトナム語A
フィリピン語A	ペルシア語A	ウェールズ語A
フィンランド語A	ポーランド語A	
フランス語A	ポルトガル語A	

注：シラバスのパート2、3、4のみを使用して、PLAのジャンルの要件を満たしてもかまいません。また、使用する作品は、学習する言語で書かれたものでなければなりません。

B1a.4.3 学校による選択の自由

作品の選択はすべて、学習する「言語A：文学」に対応する特定のPLAと、PLTから行わなければなりません。学習する3つの作品を自由に選ぶことができるパート4は除外されます（SL・HLともに）。

B1a.4.4 作家と作品の選択

特定の言語のPLAで明らかに認められていない限り、シラバスのいかなるパートにおいても、同一パート内で同じ作家を繰り返し扱うことは禁止されています。しかし、同じ作家の作品をシラバスの異なる2つのパートにおいて学習することは許可されています。

同じ作家を2回以上学習することは許可されていますが、コースの別のパートであっても同じ作品を学習することはできません。

B1a.4.5 IBアセスメントセンターへのコースの提出

2016年5月以降、学校は「言語A：学習作品の通知 (*Language A: notice of works studied*)」フォームを提出する必要はありません。

B1a.4.6 「言語A：文学」を2つ履修する志願者

「言語A：文学」を2つ履修しているIB資格取得志願者は、「バイリンガルディプロマ」を授与される資格があります（2016年5月と11月の試験セッションにおける「バイリンガルディプロマ」の規準に関する詳細は、A1.6の項を参照）。

- ・ 志願者は、学習するそれぞれの「言語A：文学」で、パート1の作品の異なるセットを学習しなければなりません。
- ・ 志願者は、それぞれの「言語A：文学」でその作家による異なる作品を学習する場合に限り、同じ作家を2回以上選んでもかまいません。
- ・ 志願者は、それぞれの「言語A：文学」についての翻訳作品評価の要件をすべて満たさなければなりません。

B1a.4.7 「言語A：文学」と「言語A：言語と文学」を履修する志願者

「言語A：文学」の志願者が、「言語A：言語と文学」コースの一部としてすでに学習している文学作品を学習することは認められません。

B1a.4.8 「言語A：文学」と「言語B」を履修する志願者

「言語A：文学」の志願者が、「言語B」コースの一部としてすでに学習している文学作品を学習することは認められません。

B1b.4.9 「言語A：言語と文学」および「文学とパフォーマンス」を履修する志願者

「言語A：言語と文学」の志願者が、「文学とパフォーマンス」コースの一部としてすでに学習している文学作品を学習することは認められません。

B1a.5 学校からコースとして提供されない「言語A：文学」

「言語A：文学」が学校によって提供されない場合は、すべての規則が順守される限り、外部の教師が志願者を指導することができます。

外部の教師を利用できない場合、または外部の教師が「内部評価」を行うことができない場合、志願者は、「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者として登録されなければなりません。「言語A：文学」は、SLのみで「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースにすることができます。

B1a.6 記述課題

B1a.6.1 作品の選択

記述課題では、コースのパート1で学習する翻訳作品を評価します。パート1の作品は、学習する「言語A」以外の言語で書かれたものでなければならず、通常、翻訳作品を学習します。パート1の作品はすべて、「指定翻訳作品リスト」(PLT)に明確に記載されたものから選ばなければなりません。PLTに含まれている作家による作品であっても、リストに載っていない作品は、このパートでは学習できません。

B1a.6.2 指導、学習、および評価の言語

指導

通常翻訳作品は、「言語A」試験に含まれる「言語A」コースに不可欠な要素として教えられます。しかし、2つ以上の「言語A」で文学コースを提供する学校は、学校の使用言語による共通の翻訳文学コースを構成することができます。その場合、さまざまな「言語A」のクラスにおいて、翻訳作品や、学習する他の作品との関連性についてのディスカッションを行うべきです。

学習

志願者は、希望するなら、翻訳作品を原語で読むことができます。

評価

記述課題は、学んでいる「言語A」で書かなければなりません。「言語A」以外の言語で作品を読んでいる場合、志願者は、課題で取り上げる引用部分を「言語A」に翻訳する必要があります。志願者が望むなら、引用の原文を脚注として含めることができますが、これを語数に数えるべきではありません。

B1a.6.3 課題

記述課題の準備は、4つの異なる段階を迫って行うべきです。

1. 「対話形式の口述活動」(インタラクティブ・オーラル)
2. 「振り返りの記述」(リフレクティブ・ステートメント)
3. 「教師の監督下での記述活動」(スーパーバイズド・ライティング)
4. 提出用の課題

これらの段階はこの順序で完了し、第1～3段階は、パート1で学習した各作品について完了しなければなりません。その後で、志願者は提出用の課題のための要素を選びます。

志願者は、提出用の課題のために、学校の翻訳作品コースのさまざまな要素を選ぶ必要があります。2人以上の志願者が同じ要素を選ぶ場合、志願者はお互いに独立して作業を行い、課題が異ならなければなりません。

教師は、記述課題の最初の草稿について、生徒に口頭のアドバイスを与えたり、別の紙にアドバイスを記すことはできますが、草稿や最終版を修正したり、印を付けたりはいけません。しかし、教師は、自分が知る限りにおいて、それが「志願者本人が取り組んだものである」ことを認証するために、課題の最終版を読む必要があります。

B1a.6.4 手順

完成した記述課題は、対応する「振り返りの記述」とともに、「外部評価」用として、5月の試験セッション向けは**2016年3月15日**まで、11月の試験セッション向けは**2016年9月15日**までにアップロードしなければなりません。志願者ごとに記入したカバーシート 1/LWA のコピーも同時にアップロードします。

パート1で学習した他の作品の「振り返りの記述」と「教師の監督下での記述活動」のコピーは、生徒全員についてファイルで保管しておかなければなりません。後日、IBアセスメントセンターが提出を求めることがあります。

B1a.7 内部評価

志願者の口述課題についての教師による「内部評価」は、志願者全員の要件です。すべての志願者は、コースの間に教師によって評価される2つの口述活動（いずれも必須）を完了しなければなりません（IB資料『「言語A：文学」指導の手引き』を参照）。2つの口述活動は以下のとおりです。

標準レベル（SL）

- ・パート2で学習した作品の抜粋に基づく個人口述コメントリー（IOC）。4つの評価規準に従って評価される。
- ・シラバスのパート4で学習した作品に基づく個人口述プレゼンテーション（IOP）。3つの評価規準に従って評価される。

上級レベル（HL）

- ・パート2で学習した詩に基づく個人口述コメントリー（IOC）と、パート2で学習した他の1つの作品に基づくその後のディスカッション。6つの評価規準に従って評価される。
- ・シラバスのパート4で学習した作品に基づく個人口述プレゼンテーション（IOP）。3つの評価規準に従って評価される。

B1a.8 個人口述コメントリー

この内部評価はコースのパート2（精読学習）に基づくもので、教師の評価のモデレーション（評価の適正化）の基礎を形成します。すべての作品を学習した時点で、教師は、試験の条件に従って、個人口述コメントリー（SL）、または個人口述コメントリーおよびディスカッション（HL）を実施しなければなりません。HLでは、クラス全体に対して行われる個人口述コメントリーで、パート2で学習した3つすべての作品を使用することが期待されています。コースの修了間近の評価が推奨されますが、義務ではありません。

B1a.8.1 個人口述コメントリーの形式および長さ

個々の志願者に、どの作品から特定の抜粋を準備するかを前もって知らせてはいけません。

評価の形式	準備時間 (分)	評価時間 (分)
標準レベル (SL)		
「考察を促す問い (ガイディングクエスチョン)」が添付された、パート2で学習した作品の1つからの抜粋についての論評 (コメントリー) と、それに続く質疑応答。パート2で学習したすべての作品が個人口述コメントリーに使用できる。	20分	10分
上級レベル (HL)		
「考察を促す問い (ガイディングクエスチョン)」が添付された、パート2で学習した詩についての論評 (コメントリー) と、それに続く質疑応答。この直後に、パート2の他の作品の1つに基づくディスカッションを行う。	20分	20分 (論評とディスカッションにそれぞれ約10分)

SLでは、個人口述コメントリーは合計10分以内で行うべきです。試験官は、10分後に聴くのを中止するよう指示されます。

HLでは、個人口述コメントリーとそれに続くディスカッションは、合計20分以内で行うべきです。口述試験を行う教師は、試験の時間管理に責任を持ち、論評 (コメントリー) とディスカッションの間で時間が適切に配分されるよう確認する必要があります。試験官は、20分後に聴くのを中止するよう指示されます。

B1a.8.2 個人口述コメントリーに向けた教師の準備

教師は、論評 (コメントリー) の前に、抜粋と「考察を促す問い (ガイディングクエスチョン)」を準備しなければなりません。事前に準備されるすべての評価用資材は、安全な状態で保管する必要があります。志願者には、抜粋または「考察を促す問い (ガイディングクエスチョン)」に関して事前の知識を与えてはいけません。

教師は、個人口述コメントリー用の抜粋と「考察を促す問い (ガイディングクエスチョン)」の選択について全面的な責任があります。志願者は、評価の手段となる作品を選ぶことができません。各抜粋は、内容の複雑さによって、20～30行とします。長さが異なる詩の形式 (例えばソネット) は許容されます。

その日のうちに、または数日以内に数人の志願者を評価する場合は、多様性を確保し、また志願者が自分の評価の内容を判断できないようにするために、反復は無作為に行わなければなりません。

志願者数	異なる抜粋の数
1 - 5	志願者 1 人につき 1
6 -10	6
11-15	7
16-20	8
21-25	9
26-30	10

志願者が 30 人以上いる学校では、それに比例してさらに多くの抜粋を追加しなければなりません。例えば、53 人の生徒がいる学校は 19 の異なる抜粋を準備する必要があります。

それぞれの抜粋には、2 つ以下の「考察を促す問い（ガイディングクエスチョン）」を添付しなければなりません。抜粋および「考察を促す問い（ガイディングクエスチョン）」の選択に関するガイドラインは、I B 資料『「言語 A：文学」指導の手引き』に記載されています。

B1a.8.3 個人口述コメントリーの実施

個人口述コメントリー（SL）、そして個人口述コメントリーおよびディスカッション（HL）は、評価の対象となっている言語で行わなければなりません。

録音

録音に関する一般的なアドバイスについては A8.9 の項を参照してください。モデレーション（評価の適正化）のために、5 人分、8 人分、または 10 人分のみをサンプルとしてアップロードしますが、録音はすべての志願者について行う必要があります。後日、追加サンプルを提出するように求められる場合があります。

実際の手配

志願者が邪魔されずに自分の資料を準備できるように、評価が行われる部屋に近い一室を補助的な部屋として割り当ててください。この準備室にも監督者を手配します。

志願者は、学校が提供する下書き用紙のみを準備室に持ち込むことができます。準備時間の中に作られたメモは、試験が行われる部屋に持っていき、口述試験の間に使用してかまいません。

志願者の準備時間の開始時に

- ・「考察を促す問い（ガイディングクエスチョン）」を添付した、抜粋（SL）または詩（HL）のコピーを志願者に手渡します。

準備時間の間に

- ・ 志願者は、監督下で論評（コメンタリー）を準備します。
- ・ 志願者は、参考のためのメモを作ってもかまいませんが、スピーチを準備して読み上げるためにメモを作ることはできません。

B1a.8.4 評価の間の教師の役割

志願者による実施（約 10 分）の間

- ・ 志願者に、抜粋について自分が準備した論評（コメンタリー）を述べるよう求める。
- ・ 絶対に必要な場合を除き、この段階では志願者に介入しない。
- ・ 次の質疑応答の時間を見越して、志願者が 7～8 分後に論評（コメンタリー）が確実に終わるように促す。
- ・ 10 分後に、論評（コメンタリー）とそれに続く質疑応答を終わらせる。

上級レベル（HL）のみ

論評（コメンタリー）が終了した時点（10 分）で

- ・ 録音装置をオフにしない。
- ・ ディスカッションが始まっていることを生徒に知らせて、ディスカッションの対象となる作品を紹介する。
- ・ ディスカッションを開始して、生徒がその文学作品を探究するように促す。

志願者のパフォーマンスは、I B 資料『「言語 A：文学」指導の手引き』の「内部評価」の評価規準を用いて評価してください。フォーム 1/LIA に各評価規準の採点結果を入力します。また、それらの採点結果を与えた理由を説明するために、フォーム上で与えられているスペースに簡単なコメントを記入してください。教師がこの情報を提供しない場合、志願者が不利な立場に置かれる可能性があります。内部評価のモデレーター（外部試験官）は、教師の採点結果とコメントを参考にするよう指示されます。

B1a.9 個人口述プレゼンテーション

個人口述プレゼンテーションは、コースのパート 4 で学習する作品に基づいて行われます。各志願者は、教師と相談して、この活動のためのトピックを選びます。志願者が選ぶトピックが「言語 A：文学」の内部評価の「レベルの説明（descriptor）」を利用することで効果的に評価できることを確認するのは教師の責任です（I B 資料『「言語 A：文学」指導の手引き』を参照）。

教師は、以下を行うことが求められます。

- ・ I B 資料『「言語 A：文学」指導の手引き』の内部評価の評価規準を用いて、各志願者のプレゼンテーションを評価する。
- ・ フォーム 1/LIA において、評価規準ごとに各志願者に下した採点結果を記録する。
- ・ 採点結果について説明するために、1/LIA のフォームで与えられたスペースに、各志願者について簡潔なコメントを書き込む。

教師はすべての志願者の個人口述プレゼンテーションを録音する必要はありませんが、そうすることが推奨されます。

B1a.10 最終的な得点を算出する

個人口述コメントリーと個人口述プレゼンテーションは、最高得点がそれぞれ 30 点です。最終的な得点（最高得点は 60 点）を 2 で割ります。

I B I S には、各志願者の最終的な平均点を提出してください。小数、分数、または概数ではなく、整数を使用してください。得点を 2 で割った小数点以下の数字は切り上げます。

2 「言語A：文学」 （「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者）

B1a.1 資料

ハンドブックの本項で提供される情報は、「言語A：文学」用の以下の資料と併せて読む必要があります。

2016年5月と11月の試験セッション	
資料名	発行日
I B 資料『「言語A：文学」指導の手引き』	2011年2月に発行、2011年2月、2011年11月、2012年8月、2013年8月に更新
「指定作家リスト」(P L A)	2011年2月以降 (B1a. 4. 2の項を参照)
「指定翻訳作品リスト」(P L T)	2011年2月
I B 資料 (英語版)『 <i>Language A: literature school supported self-taught alternative oral assessment procedures</i> (「言語A：文学」の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コース口述試験の手順)』	2011年2月、2015年に更新改訂
I B 資料『「言語A：文学」教師用参考資料』	2011年5月

B1a.2 最終締切日の概要： 2016年5月と11月の試験セッション

行動	セッション	提出先	最終締切日	方法／フォーム
パート2で学習したジャンルの選択を提出	2016年5月／ 2016年11月	I B アセスメントセンター	2016年12月1日／ 2016年6月1日	I B I Sを通じて、『「学校のサポートの下で行われる自己学習」コース志願者向け「言語A」：パート2のジャンルの選択』フォームで
評価用記述課題のアップロード	2016年5月／ 2016年11月	I B アセスメントセンター	2016年3月15日／ 2016年9月15日	フォーム 1/LWA を用いて、I B I S でアップロード
録音および関連資料のアップロード	2016年5月／ 2016年11月	I B アセスメントセンター	2016年5月7日／ 2016年11月7日	I B I S にアップロード

B1a.3 利用可能な言語

提供されているすべての「言語A：文学」コースは、学校が通常、その言語での指導を提供しておらず、志願者を教えるのに適切な資格のある教師がいない場合、「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースのオプションとして履修することができます。

A2.2の項には、2016年5月と11月、および2017年5月と11月に受験可能な「言語A：文学」の科目が記載されています。

必要とする言語が提供されていない場合は、「特別リクエスト言語」のセクションのガイドランスに従ってください。

個々の学校における個々の言語の自己学習コース履修生の最大人数は**5人**です。

「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースのオプションは、SLでのみ履修できます。

B1a.4 学校のコース

B1a.4.1 コースの選択

「言語A：文学」の作家と作品は、学習言語についてIBが指定した「指定作家リスト」(PLA)、およびIBが指定した「指定翻訳作品リスト」(PLT)から、学校が選択します。

すべての選択が、IB資料『「言語A：文学」指導の手引き』、学習言語のPLA、およびPLTの規則と指示に従っていることを確認するのは学校の責任です。

B1a.4.2 「指定作家リスト」

以下に記載された言語の「指定作家リスト」(PLA)は、オンラインカリキュラムセンター(OCC)で入手できます。

アフリカーンス語A	ドイツ語A	ルーマニア語A
アルバニア語A	ヘブライ語A	ロシア語A
アムハラ語A	ヒンディー語A	セルビア語A
アラビア語A	ハンガリー語A	ソト語A
ベラルーシ語A	アイスランド語A	シンハラ語A
ベンガル語A	インドネシア語A	スワジ語A
ボスニア語A	イタリア語A	スロバキア語A
ブルガリア語A	日本語A	スロベニア語A
カタルーニャ語A	韓国語A	スペイン語A

中国語A	ラトヴィア語A	スロヒリ語A
クロアチア語A	リトアニア語A	スウェーデン語A
チェコ語A	マケドニア語A	タイ語A
デンマーク語A	マレー語A	トルコ語A
オランダ語A	現代ギリシャ語A	ウクライナ語A
英語A	ネパール語A	ウルドゥー語A
エストニア語A	ノルウェー語A	ベトナム語A
フィリピン語A	ペルシア語A	ウェールズ語A
フィンランド語A	ポーランド語A	
フランス語A	ポルトガル語A	

特別申請による「言語A：文学」にはPLAがありません。

注：シラバスのパート2、3、4のみを使用して、PLAのジャンルの要件を満たしてもかまいません。また、使用する作品は、学習する言語で書かれたものでなければなりません。

B1a.4.3 学校による選択の自由

「言語A：文学」の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コース（SL）の志願者の場合、作品を自由に選ぶことはできません。パート2とパート4で学習するすべての作品は、学習する「言語A：文学」のPLAから選択し、パート1の作品はすべてPLTから選択する必要があります。

B1a.4.4 作家と作品の選択

作品の選択は、「指導の手引き」で規定されたシラバスの要件に従って構成されるべきです。また、ジャンル、期間、場所に関する「言語A：文学」の要件は、「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースのすべての志願者にも適用されます。学習する作品数を減らすことは認められていません。

特定の言語のPLAで明らかに認められていない限り、シラバスのいかなるパートにおいても、同一パート内で同じ作家を繰り返し扱うことは禁止されています。しかし、同じ作家の作品をシラバスの異なる2つのパートにおいて学習することは許可されています。

同じ作家を2回以上学習することは許可されていますが、コースの別のパートであっても同じ作品を学習することはできません。

「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者として、2人以上の志願者が同じ自己学習言語を学習している場合、その言語を履修するすべての志願者は同じ作品を学習しなければなりません（転校してきた志願者を除く）。

B1a.4.5 IBアセスメントセンターへのコースの提出

2016年5月以降、学校は「言語A：学習作品の通知」フォームを提出する必要はありません。

B1a.4.6 「言語A：文学」を2つ履修する志願者

「言語A：文学」を2つ履修しているIB資格取得志願者は、「バイリンガルディプロマ」を授与される資格があります（2016年5月と11月の試験セッションにおける「バイリンガルディプロマ」の規準に関する詳細は、A1.6の項を参照）。

- ・ 志願者は、学習するそれぞれの「言語A：文学」で、パート1の作品の異なるセットを学習しなければなりません。
- ・ 志願者は、それぞれの「言語A：文学」でその作家による異なる作品を学習する場合に限り、同じ作家を2回以上選んでもかまいません。
- ・ 志願者は、それぞれの「言語A：文学」について翻訳作品評価の要件をすべて満たさなければなりません。

B1a.4.7 「言語A：文学」と「言語A：言語と文学」を履修する志願者

「言語A：文学」の志願者が、「言語A：言語と文学」コースの一部としてすでに学習している文学作品を学習することは認められません。

B1a.4.8 「言語A：文学」と「言語B」を履修する志願者

「言語A：文学」の志願者が、「言語B」コースの一部としてすでに学習している文学作品を学習することは認められません。

B1b.4.9 「言語A：言語と文学」および「文学とパフォーマンス」を履修する志願者

「言語A：言語と文学」の志願者が、「文学とパフォーマンス」コースの一部としてすでに学習している文学作品を学習することは認められません。

B1a.5 「言語A：文学」の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者がいる学校の責任

学校では、自己学習コースの履修生を指導監督し助言を与えるために、非常勤の外部の指導教員を利用できるどうかにかかわらず、「言語A：文学」の専任教師を任命する必要があります。その教師は、DPコーディネーターと協働して次のことを行います。

- ・ IB規則に従うコースの選択について、志願者に助言を与える。
- ・ 志願者が、コースの学習を始める前に、選んだ作品を確実に入手できるようにする。

- ・ 志願者が、指導監督する教師の合意を得た作品を学習していること、また「特別リクエスト言語」の場合は担当する試験官の承認を得ていることを確認する。
- ・ 小論文の執筆や論評（コメンタリー）といった課題に必要な技法（テクニック）について指導を行う。
- ・ 「パート1：翻訳作品」で求められる作品の学習を監督する。
- ・ 志願者に、コースの学習、受けるべき試験とその形式、学習するコースとの関連性について、はっきりした認識を与える。
- ・ I B 資料（英語版）『*Language A: literature school supported self-taught alternative oral assessment procedures*（「言語A：文学」の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コース口述試験の手順）』の最新版、過去の試験問題、「教師用参考資料」（すべてOCCで入手可能）を志願者に提供する。
- ・ 参加する試験セッションに特定の正式な口述コメンタリー用に発表される、ジャンル別の質問を志願者に提供する。これらの質問は、志願者の最初の学年の9月に、オンラインカリキュラムセンターの「学校のサポートの下で行われる自己学習」および「特別リクエスト言語A」のページで発表されます。
- ・ 志願者が、I B 資料『「言語A：文学」指導の手引き』に定期的にアクセスできるようにし、評価されるすべての要素（コンポーネント）の評価規準になじませる。

可能であれば、志願者は、学校で他の「言語A：文学」を履修している志願者と共に指導を受けるべきです。

B1a.6 「言語A：文学」の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コース（SL）志願者の外部評価

記述試験問題（試験問題1と2）の形式は、教室でのクラスを受講している生徒のそれと同じです。

記述課題と口述試験は、自己学習コースの履修生の状況を反映するために変更された形式に従います。口述試験は学外でI Bによって採点されます。

変更された2つの評価要素^{コンポーネント}に関する手順は、以下のセクションで概説されています。

B1a.7 自己学習コース用の口述試験：自己学習コースの履修生

各ジャンル（詩、ドラマ、散文フィクション、散文ノンフィクション）ごとに5つの質問（合計20の質問）が、志願者の最初の学年の9月に事前発表されます。質問はオンラインカリキュラムセンターの「学校のサポートの下で行われる自己学習」と「特別リクエスト言語A」のページにおいて英語、フランス語、スペイン語で公表されます。志願者は、学校の指導言語でこれらの質問にアクセスするべきですが、解答は学習している「言語A」で準備するべきです。

質問は、パート2の作品の綿密な学習に枠組みを提供します。それぞれの質問は、詳細で分析的な解答を引き出すための骨組みとなります。

2年間のコースの間に、志願者は、学習した2つのジャンルのそれぞれについて、5つの異なる、適切な40行の文章または詩を見つけるよう求められ、それらは論評（コメントリー）の根拠として利用できます。志願者は、合計で10の質問（学習した1ジャンルあたり5つの質問）への解答を用意し、口述コメントリーの準備として、10の異なる抜粋を選ぶこととなります。

生徒のコースの最後の年の3月（5月の試験セッション向け）または9月（11月の試験セッション向け）の初めに、IBアセスメントセンターは、志願者の口述試験にどのジャンルが使用されるかを連絡します。各志願者は、事前に発表された所定のジャンルの5つの質問のうち2つを選択できます。

これを可能にするために、コーディネーターは次のことを行わなければなりません。

- ・「言語A：文学」（SL）の志願者を登録する際に、IBISで自己学習オプションが選択されていることを確認する。
- ・志願者のコースの最終学年の**12月1日／6月1日**までに、IBISを通じてパート2用に選択したジャンルの詳細を提出する。口頭の質問は、このフォームで提供される情報に基づくこととなります。IBアセスメントセンターにこのフォームを提出した後は、コースに変更を加えることはできません。

詳細は、オンラインカリキュラムセンターで入手可能なIB資料（英語版）『*Language A: literature school supported self-taught alternative oral assessment procedures*（「言語A：文学」の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コース口述試験の手順）』に掲載されています。

B1a.7.1 「学校のサポートの下で行われる自己学習」コース 志願者向けの形式

口述試験の録音時間の合計は20分です。

自己学習コース用の口述試験の形式は以下のとおりです。

評価の形式	準備時間（分）	最大録音時間（分）
セクション1：個人口述コメントリー		
<ul style="list-style-type: none"> ・パート2で学習する作品に基づいてうまく構成された口述コメントリー ・志願者は、自分が選んだ文章（約40行）のコピーと、その文章についてのメモを持って、自己学習コース用口述試験の準備室に入ります。 ・個人口述コメントリーを録音し、録音を止めずに、個人口述プレゼンテーションを続けます。 ・選択して使用した文章は、録音、使用したメモ、志願者の質問表（question paper）、および試験監督者の指導シートとともにアップロードする必要があります。 	20分	10分

評価の形式	準備時間 (分)	最大録音時間 (分)
セクション2：個人口述プレゼンテーション		
<ul style="list-style-type: none"> ・ パート4で学習する3つの作品のうちの2つに基づく口述プレゼンテーション ・ 志願者は口述プレゼンテーションのためのメモを準備します。メモは、簡条書きのみの形式でなければなりません。 ・ 個人口述プレゼンテーションは、セクション1の個人口述コメントリーに続いて録音します。2つの課題の間で録音を中断したり、一時停止にはいけません。 ・ このセクションで使用したメモは、録音、セクション1で使用したメモ、志願者の質問表、および試験監督者の指導シートとともにアップロードする必要があります。 	コースの間、および試験の前	10分

準備

志願者は、試験開始前の20分の準備時間で、セクション1の口述コメントリーとセクション2の口述プレゼンテーションの両方の準備をすることができます。

志願者は参考のために、簡潔で実際的なメモを試験場所に持っていくことは認められていますが、論評/プレゼンテーション全体を、声に出して読み上げることはできません。録音の間に使用したすべてのメモは、他のすべての資料とともにアップロードする必要があります。

評価用資料の提出

ディプロマプログラムのコーディネーターは、志願者と試験監督者が関連するすべてのフォームに記入したこと、また、各志願者について、以下のものがIBISを通じてアップロードされたことを確認しなければなりません。

- ・ 口述試験の録音
- ・ 個人口述コメントリーで使用した抜粋と、個人口述コメントリーおよび個人口述プレゼンテーションで使用したメモ
- ・ 志願者の質問表のコピー
- ・ 記入した試験監督者の指導シート
- ・ 個人口述プレゼンテーションの間に使用された視覚資料（もしあれば）のコピー

「学校のサポートの下で行われる自己学習」の自己学習コース用口述試験は、**5月1日**（5月の試験セッション）または**11月1日**（11月の試験セッション）までに実施し、上記のすべての資料は、**5月7日/11月7日**までに、IBISを通じてアップロードする必要があります。

個人口述コメントリーの実施

個人口述コメントリーと個人口述プレゼンテーションは、評価の対象となっている言語で行わなければなりません。

録音

録音に関する一般的なアドバイスについては A8.9 の項を参照してください。

B1a.8 記述課題

B1a.8.1 作品の選択

記述課題ではコースのパート1で学習した翻訳作品を評価します。パート1の作品は、学習する「言語A」以外の言語で書かれたものでなければならず、通常は、翻訳された作品を学習します。パート1のすべての作品は、「指定翻訳作品リスト」(PLT)に記載されたものから選ばなければなりません。PLTに含まれている作家の作品であっても、リストに記載されていない作品は学習することができません。

B1a.8.2 学習と評価の言語

学習

翻訳作品は、「言語A」コースの不可欠の要素として、「言語A」の試験言語で学習します。しかし、2つ以上の「言語A」で文学コースを提供する学校は、一般的な翻訳文学コースを学校の使用言語で構成することができます。その場合、さまざまな「言語A」のクラスで、翻訳作品について、また学習する他の作品との関連性についてディスカッションを行うべきです。「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者は、可能であればこれらのディスカッションに参加するよう奨励されます。

志願者は、希望するなら、翻訳作品を原語で読むことができます。

評価

記述課題は、学んでいる「言語A」で書かなければなりません。「言語A」以外の言語で作品を読んでいる場合、志願者は、課題で取り上げる引用部分を「言語A」に翻訳しなければなりません。志願者が望むなら、引用の原文を脚注として含めることができますが、これを語数に数えるべきではありません。

B1a.8.3 評価

記述課題の準備は、4つの異なる段階を追って行うべきです。

1. ジャーナル(記録日誌)の執筆
2. 「振り返りの記述」(リフレクティブ・ステートメント)

3. トピックの展開
4. 小論文の作成

これらの段階はこの順序で完了し、第1段階は、パート1で学習した各作品について完了しなければなりません。その後で、志願者は第2～4段階を完了するための作品を1つ選びます。

志願者は、提出用の課題のために、学校の翻訳作品コースのさまざまな要素を選ばなければなりません。2人以上の志願者が同じ要素を選ぶ場合、志願者はお互いに独立して作業を行い、課題が異なっていなければなりません。

「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者は、「パート1：翻訳作品」で学習した2つの翻訳作品の両方についてジャーナル（記録日誌）をつけます。また、学習した2つの作品の1つについて「振り返りの記述」を完成し、提出用の課題の小論文の題をつけるために、IB資料『「言語A：文学」指導の手引き』で発表された8つのプロンプトの1つに答えます。

B1a.8.4 手順

対応する「振り返りの記述」を含む、完成した記述課題は、外部評価用に、5月の試験セッション向けは**2016年3月15日**まで、11月の試験セッション向けは**2016年9月15日**までにアップロードしなければなりません。志願者ごとに記入した1/LWAカバーシートのコピーも同時にアップロードします。

3 「言語A：文学」（「特別リクエスト言語」）

B1a.1 資料

ハンドブックの本項で提供される情報は、必要に応じて、以下のセクションの1つまたは両方と併せて読む必要があります。

- ・「言語A：文学」（教室でのクラスを受講している生徒）
- ・「言語A：文学」（「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者）

B1a.2 特別申請手続き

B1a.2.1 特別申請の文脈

A2.2の項には、5月と11月の各試験セッションで提供される「言語A：文学」の科目が記載されています。

これらのリストに掲載されていない「言語A：文学」の科目での資格を希望する志願者は、自分が選択した言語における文学コースが承認されるように、申請書を提出することができます。これは「特別申請手続き」として知られています。

B1a.2.2 申請の期限

特別リクエストの申請手続きは文学コースのみで可能であり、5月の試験セッションにおいてのみ提出を受け付けます。

「言語A：文学」の特別申請手続きの締切日は以下のとおりです。

行動	セッション	提出先	最終締切日	方法/フォーム
すべての「特別リクエスト言語」コースの提案の提出（教室でのクラスを受講している志願者と「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者）	2017年5月	IBアセスメントセンター	2015年11月15日 （5月の筆記試験の18カ月前）	IBISを通じて、「特別リクエスト言語A：文学（ <i>Special request Language A: literature</i> ）」フォームで

行動	セッション	提出先	最終締切日	方法/フォーム
単年度単科履修科目履修志願者 (anticipated candidates) のための「特別リクエスト」の登録 (anticipated registration) (教室でのクラスを受講している志願者と「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者)	2016年5月	IBアセスメントセンター	2015年10月7日 (5月の筆記試験の7カ月前)	IBISを通じて、「特別リクエスト言語A：文学」フォームのチェックボックスで「Anticipated」にチェックを入れる。コースの提案は、単年度単科履修科目履修志願者 (anticipated candidates) について提出するべきではないことに留意してください (B1a.5の項を参照)。

B1a.2.3 承認のプロセス

特別申請書にはコースの提案が含まれていなければなりません (適切なコースを構成する際のガイダンスについては B1a.3 の項を参照)。

可能な場所であれば必ず、「特別リクエスト言語A：文学」のフォームは IBIS から提出しなければなりません。リクエストした言語がアルファベット以外の文字を使用する場合でも、可能であれば、IBIS の上の電子フォームを使用します。物理的なキーボードが利用できなければ、オンラインキーボードを使用することが推奨されています。これに関して何か困難なことがある場合は、ibid@ibo.org に連絡してアドバイスを求めてください。

特別申請の承認では、以下のような要素が考慮されます。

- ・ リクエスト言語をディプロマプログラム「言語A：文学」とした場合、指導と試験を行うのに十分なだけの印刷された文献が利用できること
- ・ IB が特定の言語を担当する試験官を選んで任命できる、ある程度の数の専門家を確保できること
- ・ 適任の試験官を探す必要性が生じた場合に、関係する学校が意欲的に協力してくれること

IBIS で「言語A：文学」の特別申請を提出すると、それに応答して申請の受け取りを確認する自動メールが IB アセスメントセンターから送付されます。このメッセージは、確認のみであり、申請の承認や許可を意味しません。申請の許可または拒否については、その後、できるだけ早く通知されます。許可を受けた言語については、コースの提案が、最終承認に責任のある、関係する試験官に回されます。

学校は、特別申請が承認されるまで、翻訳作品の学習、またはテキスト批評の一般的な学習によって「特別リクエスト言語」の指導を始めるようにアドバイスされます。これにより、何らかの理由で特別申請が許可されない場合でも、志願者は別の「言語A：文学」のコースに移ることが可能になります。

特別申請は、次のセッションに繰り越すことができないため、各試験セッションに合わせて提出しなければなりません。

B1a.3 コースの提案

志願者のコースは、以下の作品によって構成される必要があります。

- ・ リクエスト言語で書かれた 8 つの作品 (S L) / 10 の作品 (H L)。これらの作品は、学校、教師、または志願者自身のリソースから選択されます。選んだ作品のリストは、科目を担当する試験官の承認を得るため、I B I S の「特別リクエスト言語 A : 文学」のフォームを用いて入力します。学校は、選択したすべての作品に文学的価値があることを確認しなければなりません。
- ・ リクエスト言語以外の言語で書かれた 2 つの作品 (S L) / 3 つの作品 (H L)。これらの作品は P L T から選択します。

作品の構成にあたっては、シラバスの要件に従って、パート 2 では各テキストを異なるジャンルから選択し、パート 3 ではすべてのテキストを同じジャンルから選択するという方法をとる必要があります (I B 資料『「言語 A : 文学」指導の手引き』を参照)。

コースを構成する際に、学校は、以下の「作品」の定義に従うべきです。

- ・ 小説、自叙伝、または伝記などの単一の長編作品
- ・ 短編小説などの短めのテキストで 2 編以上
- ・ 5 ~ 10 編の短編小説
- ・ 5 ~ 8 編の随筆
- ・ 10 ~ 15 通の手紙
- ・ 長い詩の主要部分 (少なくとも 600 行)
- ・ 15 ~ 20 編の短めの詩

コースがいったん承認されると、学校が作品の選択に変更を加えることは認められません。

B1a.4 評価：試験問題 2 の構成

「特別リクエスト言語」には、事前に指定された各ジャンルのカテゴリーのリストを含む P L A がないため、コースの試験問題 2 は、以下の各ジャンルに関する 3 つの小論文 (エッセイ) の設問で構成されます。

- ・ ドラマ
- ・ 詩
- ・ 散文フィクション
- ・ 散文ノンフィクション

B1a.5 単年度単科履修科目履修志願者 (anticipated candidates)

単年度単科履修科目履修志願者 (anticipated candidates) が受講する科目としての「特別リクエスト言語」の申請は、**10月7日**までに行わなければなりません。

学校は、リクエストした言語が、すでに5月の試験セッション用に認定されている場合
にのみ、これらの申請が承認され得ることを認識する必要があります。

コーディネーターは、I B I S で利用可能な、「特別リクエスト言語 A : 文学」の
フォームを用いて、「Anticipated」のボックスにチェックを入れます。学校は、今の段階
では、独自のコースを作成できず、担当の試験官がすでに認定したブックリストを採用し
なければなりません。承認されたブックリストは、I B アセスメントセンターから提供さ
れます。学校が、提供されたブックリストに変更を加えることは認められません。

B1b グループ1「言語A：言語と文学」

B1b.1 資料

ハンドブックの本項で提供される情報は、「言語A：言語と文学」用の以下の資料と併せて読む必要があります。

2016年5月と11月の試験セッション	
資料名	発行日
I B 資料『「言語A：言語と文学」指導の手引き』	2011年2月に発行、2011年11月、2012年8月、2013年8月に更新改訂
「指定作家リスト」(PLA)	2011年2月以降 (B1a. 4.2の項を参照)
「指定翻訳作品リスト」(PLT)	2011年2月
I B 資料『「言語A：言語と文学」教師用参考資料』 I B 資料の、諸言語の「教師用参考資料」	2011年3月

B1b.2 最終締切日の概要： 2016年5月と11月の試験セッション

行動	提出先	最終締切日	方法/フォーム
評価用の記述タスクをアップロード	I B アセスメントセンター	2016年3月15日 / 2016年9月15日	I B I S で、カバーシート 1/L&LWT を用いてアップロード
予測スコアと内部評価の採点結果を提出	I B アセスメントセンター	2016年4月10日 / 2016年10月10日	I B I S を通じて
内部評価のサンプルの録音（個人口述コメントリー）および関連資料のアップロード	I B アセスメントセンター	2016年4月20日 / 2016年10月20日	I B I S で、フォーム 1/L&LIA を用いてアップロード

B3 グループ3 「個人と社会」

B3.1 資料

ハンドブックの本項で提供される情報は、各科目の「指導の手引き」と併せて読む必要があります。

2016年5月と11月の試験セッション	
資料名	発行日
I B 資料『「歴史」指導の手引き』	2008年3月に発行、2009年3月に改訂、2009年5月に更新改訂
I B 資料『「歴史」教師用参考資料』	2011年8月
I B 資料（英語版）『 <i>History specimen papers</i> （「歴史」試験問題見本）』	2008年9月に発行、2009年に改訂
I B 資料（英語版）『 <i>Geography guide</i> （「地理」指導の手引き）』	2009年2月
I B 資料（英語版）『 <i>Geography teacher support material</i> （「地理」教師用参考資料）』	2009年9月
I B 資料（英語版）『 <i>Geography specimen papers</i> （「地理」試験問題見本）』	2009年2月
I B 資料『「経済」指導の手引き』	2010年11月に発行、2012年8月に更新改訂
I B 資料『「経済」教師用参考資料』	2011年2月
I B 資料（英語版）『 <i>Philosophy guide</i> （「哲学」指導の手引き）』	2007年3月に発行、2010年1月に改訂、2012年8月に更新改訂
I B 資料（英語版）『 <i>Philosophy teacher support material</i> （「哲学」教師用参考資料）』	2007年9月
I B 資料（英語版）『 <i>Philosophy specimen papers</i> （「哲学」試験問題見本）』	2007年3月
I B 資料（英語版）『 <i>Psychology guide</i> （「心理学」指導の手引き）』	2009年2月

2016年5月と11月の試験セッション	
資料名	発行日
I B 資料 (英語版) 『 <i>Psychology teacher support material</i> (「心理学」教師用参考資料)』	2009年11月
I B 資料 (英語版) 『 <i>Psychology specimen papers</i> (「心理学」試験問題見本)』	2009年5月
I B 資料 (英語版) 『 <i>Social and cultural anthropology guide</i> (「社会・文化人類学」指導の手引き)』	2008年2月、2010年11月に更新改訂
I B 資料 (英語版) 『 <i>Social and cultural anthropology teacher support material</i> (「社会・文化人類学」教師用参考資料)』	2008年9月
I B 資料 (英語版) 『 <i>Social and cultural anthropology specimen papers</i> (「社会・文化人類学」試験問題見本)』	2008年9月
I B 資料 (英語版) 『 <i>Business and management guide</i> (「ビジネスと経営」指導の手引き)』	2007年3月
I B 資料 (英語版) 『 <i>Further clarifications to business and management guide</i> (「ビジネスと経営」指導の手引き解説)』	2008年8月
I B 資料 (英語版) 『 <i>Business and management teacher support material</i> (「ビジネスと経営」教師用参考資料)』	2007年9月
I B 資料 (英語版) 『 <i>Business and management specimen papers</i> (「ビジネスと経営」試験問題見本)』	2007年9月
I B 資料 (英語版) 『 <i>Information technology in a global society guide</i> (「グローバル社会の情報技術」指導の手引き)』	2010年1月
I B 資料 (英語版) 『 <i>Information technology in a global society teacher support material</i> (「グローバル社会の情報技術」教師用参考資料)』	2010年3月
I B 資料 (英語版) 『 <i>Information technology in a global society specimen papers</i> (「グローバル社会の情報技術」試験問題見本)』	2010年1月
I B 資料 (英語版) 『 <i>World religions guide</i> (「世界の宗教」指導の手引き)』	2011年5月
I B 資料 (英語版) 『 <i>World religions teacher support material</i> (「世界の宗教」教師用参考資料)』	2011年5月に発行、2012年5月、2013年8月に更新改訂

B3.2 最終締切日の概要： 2016年5月と11月の試験セッション

行動	提出先	最終締切日	方法／フォーム
予測スコアと内部評価の採点結果を提出	IBアセスメントセンター	2015年4月10日／ 2015年10月10日	IBIS
内部評価のサンプルとなる学習成果物を提出	モデレーター	2015年4月20日／ 2015年10月20日	フォーム3/CS

B3.3 内部評価

内部評価は、コースの間に志願者が完成した学習成果物に基づいて行われ、グループ3のすべての科目（SL・HLともに）の要件です。志願者の成果物のサンプル提出により、IBは、学校にわたる共通の規準を得るために、教師による採点結果のモデレーション（評価の適正化）を行うことができます。

B3.3.1 モデレーション（評価の適正化）のサンプル

モデレーション（評価の適正化）のためのサンプルは、IBISが特定したものでなければなりません。各サンプルの志願者について、カバーシートのフォーム3/CSに記入します。モデレーション（評価の適正化）のために志願者の学習成果物の原本を提出する場合は、学習成果物とフォームのコピーを残しておくことが推奨されています。提出する成果物は、互いにしっかりとまとめるようにします。プラスチックのファイルホルダーやリングバインダーは使用しないでください。

サンプル志願者の学習成果物が「例外的」である場合は、それについてフォーム3/CSに注記を入れ、似たような点数となった別の志願者の学習成果物をサンプルに追加すべきです。

「地理」に関しては、土や植物標本を提出しないでください。学校内の締切日までに、以下のものをコーディネーターに提出します。

- ・ 志願者の予測スコアと内部評価の採点結果
- ・ 教師と志願者が署名し日付を入れた、それぞれのサンプル志願者用のカバーシート、フォーム3/CS
- ・ サンプル志願者の学習成果物

B3.3.2 内部評価の要件

以下の表は、グループ3の各科目に求められる課題の種類をまとめたものです。

科目とレベル	課題の種類
歴史HL／SL 歴史に関する探究（1500～2000語）	記述課題
地理HL／SL シラバスのテーマに基づく、2500語のフィールドワークレポート	フィールドワーク
経済HL／SL 3つの論評（コメンタリー）のポートフォリオ。各論評は、それぞれ750語を超えないこと。	ポートフォリオ
哲学HL／SL 非哲学的な材料の哲学的な分析（1600～2000語）	哲学的な分析
心理学HL 1500～2000語の実証的研究	実証的研究
心理学SL 1000～1500語の実証的研究	実証的研究
社会・文化人類学HL 2000語以内の現地調査レポート	フィールドワーク
社会・文化人類学SL 2つの活動： 1時間の観察とそれに続く600～700語のレポート作成 最初のレポートの批評（700～800語）	観察および批評の練習
ビジネスと経営HL 調査提案と行動計画（500語以内）、およびレポート（2000語以内）で構成された調査プロジェクト。調査プロジェクトでは、組織が直面している問題を扱うか、組織が下すべき決定を分析する。	調査プロジェクト
ビジネスと経営HL 特定の組織が直面している実際の問題に関する、裏づけとなる3つ～5つの資料に基づいて書かれた論評（コメンタリー）（1500語以内）	記述による論評（コメンタリー）
グローバル社会の情報技術HL／SL プロジェクト：カバーページ、製品、スクリーンキャスト、および2000語以内の文書を含むZIPファイル（最大サイズ750MB）	プロジェクト
世界の宗教SL 信奉者のグループや個人による宗教的な体験、実践、または信念の1つの側面についての調査研究（1500～1800語）	記述による分析

B4 グループ4「理科」

B4.1 資料

ハンドブックの本項で提供される情報は、対応する「指導の手引き」と併せて読む必要があります。

2016年5月と11月の試験セッション	
資料名	発行日
I B 資料『「生物」指導の手引き』	2014年2月
I B 資料（英語版）『 <i>Design technology guide</i> （「デザイン技術」指導の手引き）』	2014年3月
I B 資料『「物理」指導の手引き』	2014年2月
I B 資料『「化学」指導の手引き』	2014年2月
I B 資料（英語版）『 <i>Computer science guide</i> （「コンピューター科学」指導の手引き）』	2012年1月
I B 資料（英語版）『 <i>Sports, exercise and health science guide</i> （「スポーツ・エクササイズ・健康科学」指導の手引き）』	2012年3月
「理科」の各科目の「教師用参考資料」（オンラインカリキュラムセンターで入手可能）	

B4.2 最終締切日の概要： 2016年5月と11月の試験セッション

行動	提出先	最終締切日	方法／フォーム
予測スコアと内部評価の採点結果を提出	I B アセスメントセンター	2016年4月10日／ 2016年10月10日	I B I S
内部評価のサンプルとなる学習成果物を提出： 生物、化学、物理	モデレーター	2016年4月20日／ 2016年10月20日	フォーム 4/PSOW フォーム 4/IA フォーム 4/ICCS
内部評価のサンプルとなる学習成果物を提出： デザイン技術	モデレーター	2016年4月20日／ 2016年10月20日	フォーム 4/PSOWDT フォーム 4/IADT フォーム 4/ICCSDT

行動	提出先	最終締切日	方法／フォーム
内部評価のサンプルとなる学習成果物を提出： スポーツ・エクササイズ・健康科学	モデレーター	2016年4月20日／ 2016年10月20日	フォーム4/PSEHSEHS フォーム4/IASEHS
内部評価のサンプルとなる学習成果物を提出： コンピューター科学	モデレーター	2015年4月20日／ 2015年10月20日	フォーム4/ICCS

B4.3 内部評価の要件：生物、化学、物理

内部評価の要件は、「生物」「化学」「物理」に共通です。内部評価は、最終評価の20%に相当し、1つの科学研究から構成されます。「個人研究」では、コースのレベルに見合ったトピックを扱うようにしてください。

生徒の学習成果物は、教師が内部評価し、IBが外部的にモデレーション（評価の適正化）を行います。内部評価では、共通の評価規準に照らし合わせて採点され、SL・HLともに24点満点です。

内部評価課題は、1つの科学研究に約10時間かけて取り組みます。研究は、約6～12ページのレポートにまとめます。この長さを超える研究は、簡潔さに欠けるものとして、評価規準の「コミュニケーション」の項目において減点されます。

内部評価課題の評価規準は一般的なものであるため、観察実験を伴う研究では「生物」「化学」「物理」の多様なニーズを満たす幅広い実習活動を取り入れることが可能です。

コースの実習の要件

提出物を書き上げる時間を除いて、指導計画の少なくとも25%は実習活動に当てなければなりません。これはSLで40時間、HLで60時間に相当します。この時間には、志願者が「グループ4プロジェクト」に費やす10時間と、各志願者が内部評価課題である「個人研究」に費やす10時間が含まれます。理想的には、実習時間は、コースの初め、中頃、または終わりの数週間に集中させるのではなく、コースのほぼ全体にわたって配分すべきです。

実習活動には、コア、選択項目、そして関係する場合はHL発展項目を含む、コース全体の内容が広く含まれているのが理想的です。関連する「指導の手引き」のシラバスのセクションに記載されている指定された実習が、すべての志願者によって行われることが重要です。

B4.3.1 内部評価関連の記録

個々の志願者のカバーシート—フォーム4/ICCS

個々の志願者のカバーシートは、サンプルに選ばれた志願者だけでなく、すべての志願者について記入する必要があります。これには「グループ4プロジェクト」への取り組み

についての志願者の説明、教師による規準に基づく採点、および教師と志願者による誓約が含まれています。

B4.3.1.1 実習を伴う学習活動

「実習を伴う学習活動」(P S O W : practical scheme of work) では、実習のカリキュラムを教師が計画します。また、「実習を伴う学習活動」は、クラスが取り組む研究すべてのまとめとしても位置づけられます。詳細はフォーム 4/PSOW に記録します。それぞれのクラスとレベルについて、フォーム 4/PSOW を 1 つずつ作成します。1 つのクラスに H L と S L の両方のレベルの志願者がいる場合は、各レベルで 1 つずつ、2 つのフォーム 4/PSOW に記入しなければなりません。

フォーム4/PSOWの記入

概要	活動の簡単な説明
P P	活動が指定された実習であることを示す
I C T	1～5から選ぶ
トピック／オプション	最も関連性のあるトピックまたは選択項目の、数字または文字(例えば、7またはC)
時間	提出物を書き上げる時間を除く、クラスが研究に費やした推定の時間数

フォーム4/IA内部評価チェックリストの記入

フォーム 4/IA に記入し、内部評価用のサンプルとなる学習成果物の最初のページとして同封してください。

B4.3.1.2 評価

教師は、各科目の「指導の手引き」の内部評価に関するセクションの評価規準を用いて学習成果物を評価し、モデレーターがそれを再度採点します。

「理科」の科目を2つ(または3つ)履修する志願者

「理科」(グループ 4) の科目を 2 つ以上履修する志願者は、「グループ 4 プロジェクト」の 2 つの「行動」の段階に取り組む必要は**ありません**。志願者は、すべての 4/ICCS フォームで同様の志願者誓約を提出するべきです。

B4.3.2 モデレーション(評価の適正化)用サンプル

教師は、内部評価に関する一般的な情報について、A8.6 および A8.7 の項を読む必要があります。選んだサンプルは、I B I S が特定したものでなければなりません。

B4.3.2.1 モデレーション（評価の適正化）の目的

「理科」（グループ4）の各科目について、教師はモデレーション（評価の適正化）用サンプルとなる学習成果物1セットを提出しなければなりません。モデレーターは、学校間で同等の規準を確保するために、この学習成果物を採点します。すべての学校は、評価用の研究の適切性について、評価規準に照らしたフィードバックを受け取ります。フォームに記入するモデレーターもまた、モデレーション（評価の適正化）の対象となるため、学校の採点結果が外部的なIBの規準にどれくらいよく合致したかについて、フィードバックのフォームを用いてコメントすることはできません。

サンプル学習成果物の各セットとして、以下の資料をモデレーターに送付する必要があります。

- ・ フォーム4/IA『「理科」（グループ4）：内部評価チェックリスト（*Group 4: Internal assessment checklist*）』。このリストは、学校が送付するサンプル学習成果物の一番上に置きます。
- ・ 学校の各クラスとレベルごとのフォーム4/PSOW。これはフォーム4/IAのすぐ下に置きます。
- ・ サンプルのセットの各志願者ごとに記入したフォーム4/ICCS。それぞれのフォーム4/ICCSは、関係する志願者の「個人研究」の前に置きます。
- ・ IBISが選んで、サンプルのセットに含まれる「個人研究」

例外的な志願者

科目の履修者が少ない学校は、サンプルのセットに例外的な志願者の学習成果物を含めなければならないかもしれません。教師は、そのような志願者の学習成果物が例外的であるとの注記を入れ、どのような難しさや問題があったかを説明するべきです。

B4.3.2.2 内部評価の最終的な採点結果

IBISの内部評価の選択項目に、最終的な得点（24点満点）を記録します。

B4.4 内部評価の要件：デザイン技術

内部評価（IA）の要件は、最終評価の40%に相当し、1つのデザインプロジェクトから構成されます。生徒の学習成果物は、教師が内部評価し、IBが外部的にモデレーション（評価の適正化）を行います。内部評価の実施では、SL・HLともに4つの共通の評価規準に照らし合わせて採点し、HLについては2つの評価規準が追加されます。SLは36点満点、HLは54点満点です。

4つの共通の評価規準に基づくSL・HLの到達目標レベルは同じです。

IAの課題は1つのデザインプロジェクトで構成されます。SLでは、このプロジェクトは約40時間で完了させ、HLでは約60時間で完了させます。それぞれの評価規準について、約10時間で取り組むべきです。

S Lの最大ページ数はA 4で38 ページ（またはそれに相当する分量）です。H Lの最大ページ数はA 4で50 ページ（またはそれに相当する分量）です。この制限を超過した学習成果物のページについては、教師は、得点を与えるべきではありません。モデレーション（評価の適正化）用のサンプルとして選択された場合、試験官は、この制限枚数で成果物を読むのを中止します。

学校でS LとH Lの両方のレベルが履修されている場合は、両方のレベルで外部的なモデレーション（評価の適正化）を行うために、別々のサンプルのセットを送る必要があります。

コースの実習の要件

提出物を書き上げる時間を除いて、指導計画の少なくとも25%は実習活動に当てなければなりません。これはS Lで60時間、H Lで96時間に相当します。これらの時間には、志願者が「グループ4プロジェクト」に費やす10時間と、各志願者がデザインプロジェクトに費やす40時間（S L）または60時間（H L）が含まれます。残りの時間は、教師が指示する活動に割り当てます。理想的には、実習時間は、コースの初め、中頃、または終わりの数週間に集中させるのではなく、コースのほぼ全体にわたって配分すべきです。

B4.4.1 内部評価関連の記録

個々の志願者のカバーシート—フォーム4/ICCSDT

個々の志願者のカバーシートは、サンプルに選ばれた志願者だけでなく、すべての志願者について記入する必要があります。これには「グループ4プロジェクト」への取り組みについての志願者の説明、教師による規準に基づく採点、および教師と志願者による誓約が含まれています。

B4.4.1.1 実習を伴う学習活動

「実習を伴う学習活動」（P S O W）では、実習のカリキュラムを教師が計画します。また、「実習を伴う学習活動」は、教師が指示しクラスが取り組む活動すべてのまとめとしても位置づけられます。詳細はフォーム4/PSOWDTに記録します。それぞれのクラスとレベルについて、フォーム4/PSOWDTを1つずつ作成します。1つのクラスにH LとS Lの両方のレベルの志願者がいる場合は、各レベルで1つずつの、2つのフォーム4/PSOWDTに記入しなければなりません。

フォーム4/PSOWDTの記入

概要	活動の簡単な説明
I C T	1～5から選ぶ
トピック	最も関連性のあるトピックの数
時間	提出物を書き上げる時間を除く、クラスが活動に費やした推定の時間数

フォーム4/IADT内部評価チェックリストの記入

フォーム4/IADTに記入し、内部評価用のサンプルとなる学習成果物の最初のページとして同封してください。SL/HLのレベルごとに1つのフォームが必要です。

B4.4.1.2 評価

教師は、各科目の「指導の手引き」の内部評価に関するセクションの評価規準を用いて学習成果物を評価し、モデレーターがそれを再度採点します。

「理科」の科目を2つ（または3つ）履修する志願者

「理科」（グループ4）の科目を2つ以上履修する志願者は、「グループ4プロジェクト」の2つの「行動」の段階に取り組む必要は**ありません**。志願者は、すべての4/ICCSフォームで同様の志願者誓約を提出するべきです。

B4.4.2 モデレーション（評価の適正化）のサンプル

教師は、内部評価に関する一般的な情報について、A8.6およびA8.7の項を読む必要があります。選んだサンプルは、IBISが特定したものでなければなりません。

B4.4.2.1 モデレーション（評価の適正化）の目的

各レベルについて、教師はモデレーション（評価の適正化）用サンプルとなる学習成果物1セットを提出しなければなりません。モデレーターは、学校間で同等の規準を確保するために、この学習成果物を採点します。すべての学校は、評価用のデザインプロジェクトの適切性について、評価規準に照らしたフィードバックを受け取ります。フォームに記入するモデレーターもまた、モデレーション（評価の適正化）の対象となるため、学校の採点結果が外部的なIBの規準にどれくらいよく合致したかについて、フィードバックのフォームを用いてコメントすることはできません。

各レベルのサンプルのセットとして、以下の資料をモデレーターに送付する必要があります。

- ・ フォーム4/IADT『「理科」（グループ4）：内部評価チェックリスト（*Group 4: Internal assessment checklist*）』。このリストは、学校が送付するサンプル学習成果物の一番上に置きます。
- ・ 学校のクラスごとのフォーム4/PSOWDT。これはフォーム4/IADTのすぐ下に置きます。
- ・ サンプルのセットの志願者ごとに記入したフォーム4/ICCSDT。それぞれのフォーム4/ICCSDTは、関係する志願者の「デザインプロジェクト」の前に置きます。
- ・ IBISが選んで、サンプルのセットに含まれる「デザインプロジェクト」

例外的な志願者

科目の履修者が少ない学校は、サンプルのセットに例外的な志願者の学習成果物を含めなければならないかもしれません。教師は、そのような志願者の学習成果物が例外的であるとの注記を入れ、どのような難しさや問題があったかを説明するべきです。

B4.4.2.2 内部評価の最終的な採点結果

I B I S の内部評価の選択項目に、最終的な得点（S L で 36 点満点、H L で 54 点満点）を記録します。

B4.5 内部評価の要件： 「スポーツ・エクササイズ・健康科学」

内部評価は、「スポーツ・エクササイズ・健康科学」の合計得点の 24% を占めます。

提出物を書き上げる時間を除いて、指導計画の少なくとも 25% は実習活動に当てなければなりません。これは、志願者が「グループ 4 プロジェクト」に費やす 10 時間を含めて、S L で 40 時間になります。理想的には、実習時間は、コースの初め、中頃、または終わりの数週間に集中させるのではなく、コースのほぼ全体にわたって配分する必要があります。サンプルをモデレーターに提出する提出期限の後、2～3 時間に限り、研究活動を行うことができます。その時間は、「実習的要素」の時間数として加算することができます。

実習活動は、コアや選択項目を含む、コース全体の内容が広く含まれているのが理想的です。実習内容は、科目別のシラバスの取り扱う範囲の学習の幅と深さに対応していることが望まれますが、シラバスのあらゆるトピックについて実習を行う必要はありません。

教師は、志願者のニーズ、利用可能なリソース、指導のスタイル、指導する科目およびトピックに基づいて、自由に実習を選ぶことができます。実習の最低回数は指定されていません。

B4.5.1 内部評価関連の記録

B4.5.1.1 「実習を伴う学習活動」

「実習を伴う学習活動」（P S O W）では、実習のカリキュラムを教師が計画します。また、「実習を伴う学習活動」は、志願者が取り組む研究すべてのまとめとしても位置づけられます。詳細はフォーム 4/PSOWSEHS に記録します。各志願者はフォーム 4/PSOWSEHS に記入する必要があります。

フォーム 4/PSOWSEHS の記入

日付	各実習が行われた日付
概要	活動の簡単な説明
I C T	1～5 から選ぶ

トピック／オプション	最も関連性のあるトピックまたは選択項目の、数字または文字（例えば、7またはC）
時間	提出物を書き上げる時間を除く、志願者が研究に費やした推定の時間数
レベル	各規準について評価された数値（0～6）
合計	各評価規準D、DCP、CEで得たうちの上位2つのレベルと、MSおよびPSのレベルの合計

「グループ4プロジェクト」についても、フォーム4/PSOWSEHSに記載します。

以下の3つの評価規準で、それぞれ少なくとも2回評価しなければなりません。

- ・ デザイン（D）
- ・ データの収集および処理（DCP）
- ・ 結論と評価（CE）

人間性の側面に関連したパーソナルスキル（PS）は、「グループ4プロジェクト」の間に1回だけ評価されます。

操作スキル（MS）は、コース全体にわたって総括的に評価されます。

D、DCP、CEそれぞれで得たうちの上位2つのレベルは、サンプルのセットの各志願者用フォーム4/PSOWSEHSで目立つように印を付ける必要があります（B4.5.2.2の項を参照）。

フォーム4/IASEHSの記入

フォーム4/IASEHSに記入し、内部評価用のサンプルとなる学習成果物の最初のページとして同封してください。

B4.5.1.2 評価

教師は、各科目の「指導の手引き」の内部評価に関するセクションの評価規準を用いて学習成果物を評価し、モデレーターがそれを再度採点します。

グループ4プロジェクト

「グループ4プロジェクト」は、フォーム4/PSOWSEHSに記載しなければなりません。パーソナルスキル（PS）についての「グループ4プロジェクト」の得点（0～6）をフォーム4/PSOWSEHSに記入します。

「グループ4プロジェクト」に参加した証拠^{エビデンス}は必要ありません。

評価

「グループ4プロジェクト」は、志願者の実習経験全体の一部を形成し、パーソナルスキル（PS）についてのみ評価されます。評価は、「指導の手引き」の「グループ4プロジェクト」に関するセクションに記載されているPS評価規準を用いることで行われます。

「理科」の科目を2つ（または3つ）履修する志願者

「理科」（グループ4）の科目を2つ以上履修する志願者は、「グループ4プロジェクト」の2つの「行動」の段階に取り組む必要は**ありません**。これらの志願者は、「グループ4プロジェクト」に取り組む他のすべての志願者と同じ学習を行います。

B4.5.2 モデレーション（評価の適正化）のサンプル

教師は、内部評価に関する一般的な情報について、A8.6 および A8.7 の項を読む必要があります。選んだサンプルは、IBISが特定したものでなければなりません。

B4.5.2.1 モデレーション（評価の適正化）の目的

「スポーツ・エクササイズ・健康科学」について、教師はモデレーション（評価の適正化）用サンプルとなる学習成果物1セットを提出する必要があります。モデレーターは、学校間で同等の規準を確保するために、この学習成果物を採点します。すべての学校は、評価用の研究の適切性について評価規準に照らしたフィードバックと、「実習を伴う学習活動」についてのフィードバックを受け取ります。フォームに記入するモデレーターもまた、モデレーション（評価の適正化）の対象となるため、学校の採点結果が外部的なIBの規準にどれくらいよく合致したかについて、フィードバックのフォームを用いてコメントすることはできません。

フォーム4/IASEHSの内部評価チェックリストは、学校がモデレーターに送付するサンプル学習成果物の一番上に置きます。

サンプルのセットの各志願者については、以下の資料をモデレーターに送付しなければなりません。

- ・ 教師と志願者が署名し日付を入れたフォーム4/PSOWSEHS
- ・ フォーム4/PSOWSEHSで目立つように印を付けたレベル（数値）に対応する研究および教師の指示
- ・ これには志願者に与えられた口頭の指示も含まれる。

パーソナルスキルと操作スキルに関する証拠^{エビデンス}の資料は必要ありません。

例外的な志願者

科目の履修者が少ない学校は、サンプルのセットに例外的な志願者の学習成果物を含めなければならないかもしれません。教師は、そのような志願者の学習成果物が例外的であるとの注記を入れ、どのような難しさや問題があったかを説明するべきです。

モデレーション（評価の適正化）用のサンプル学習成果物の送付

以下のことを確認してください。

- ・ 教師と志願者が署名し日付を入れた、志願者ごとのフォーム4/PSOWSEHSを同封した。

- ・各志願者のフォーム4/PSOWSEHS上で、評価規準D、DCP、CEそれぞれの上位2つのレベル(数値)に、はっきりとした印が付けられている。
- ・対応する研究と教師の指示シートをモデレーターに送付した。

モデレーターは、教師が与えたレベル(0~6)をチェックするために、この学習成果物を再度採点します。学校はコピーを残さなければなりません。

B4.5.2.2 内部評価の最終的な採点結果

I B I Sの内部評価の選択項目に、最終的な得点(48点満点)を記録します。

サンプルとなる学習成果物を提案する前に

以下のことを確認してください。

- ・本ハンドブックのA8.6およびA8.7の項を読んだ。
- ・志願者の内部評価を担当する教師が2人以上いる場合、学校の内部評価を標準化した。
- ・サンプルのセットに、教師と志願者が署名し日付を入れた、志願者ごとのフォーム4/PSOWSEHSを含めた。
- ・写真複写された資料は判読可能である(オリジナルの作品成果物をモデレーターに送るのが理想的)。
- ・評価規準D、DCP、CEはすべて少なくとも2回評価された。
- ・評価規準D、DCP、CEそれぞれの上位2つのレベルは、各志願者のフォーム4/PSOWSEHS上ではっきりと丸を付けるか、チェック印を入れた。
- ・「グループ4プロジェクト」のPSの得点を各志願者のフォーム4/PSOWSEHSに記入した。
- ・MSの総括的な得点を各志願者のフォーム4/PSOWSEHSに記入した。
- ・対応する研究と教師の指示シートが明確に特定されている。
- ・フォーム4/IASEHSの内部評価チェックリストに記入し、モデレーターに送られるサンプル学習成果物の一番上に同封した。

B4.6 内部評価の要件：コンピューター科学

コンピューター科学の内部評価のモデルは、志願者が開発した計算機解で構成されます。各志願者はまた、「グループ4プロジェクト」に参加しなければなりません。SL・HLともに各志願者は、計算機解に30時間、「グループ4プロジェクト」に10時間を費やすことが期待されています。

HLの志願者では、内部評価は合計得点の20%を占めます。SLの志願者では合計得点の30%です。

S LとH Lの両方で、内部評価の最終得点は34点満点です。H LとS Lを組み合わせたサンプルのセットは、I Bによる外部的なモデレーション（評価の適正化）用に送られます。

B4.6.1 内部評価関連の記録

B4.6.1.1 個々の志願者のカバーシート

個々の志願者のカバーシートは、サンプルに選ばれた志願者だけでなく、すべての志願者について記入する必要があります。これには「グループ4プロジェクト」への取り組みについての志願者の説明、規準に基づいて教師が計算機解に与える得点、そして教師および志願者による誓約が含まれています。

フォーム4/ICCSには、以下の5つの評価基準で教師が採点した得点が含まれているべきです。

- ・ 計画（A）
- ・ 解の概要（B）
- ・ 展開（C）
- ・ 成果物の機能性と拡張性（D）
- ・ 評価（E）

B4.6.1.2 評価

教師は、各科目の「指導の手引き」の内部評価に関するセクションの評価規準を用いて学習成果物を評価し、モデレーターがそれを再度採点します。

「理科」の科目を2つ（または3つ）履修する志願者

「理科」（グループ4）の科目を2つ以上履修する志願者は、2つの「行動」の段階に取り組む必要は**ありません**。これらの志願者は、「グループ4プロジェクト」に取り組む他のすべての志願者と同じ学習を行います。志願者は、すべての4/ICCSフォームで同様の志願者誓約を提出するべきです。

B4.6.2 モデレーション（評価の適正化）用のコンピューター科学のサンプル

教師は、内部評価に関する一般的な情報について、A8.6およびA8.7の項を読む必要があります。選んだサンプルは、I B I Sが特定したものでなければなりません。

B4.6.2.1 モデレーション（評価の適正化）用のサンプル学習成果物の送付

コンピューター科学について、教師はモデレーション（評価の適正化）用サンプルとなる学習成果物1セットを提出しなければなりません。モデレーターは、学校間で同等の規準を確保するために、この学習成果物を採点します。すべての学校は、内部評価の適切性について、評価規準に照らしたフィードバックを受け取ります。フォームに記入するモデ

レーターもまた、モデレーション（評価の適正化）の対象となるため、学校の採点結果が外部的なIBの規準にどれくらいよく合致したかについて、フィードバックのフォームを用いてコメントすることはできません。

各志願者は、自分の解を学校が提供するCD/DVD/USBドライブに保存して、ZIPファイル（テンプレートはTSMで入手可能）を提出することが期待されています。つまり、サンプル志願者が5人の学校は、5つのCD/DVD/USBドライブをモデレーターに送ります。ZIPファイルには、試験セッション番号と志願者の姓を書いたラベルを明記します。各志願者のZIPファイルのトップレベルには以下が含まれるべきです。

- ・ HTML形式のカバーページ
- ・ 最終成果物を含む「成果物」フォルダー
- ・ 関連する記録を含む「記録」フォルダー
- ・ 成果物の機能を示すビデオ
- ・ 教師と志願者が署名して日付を入れ、PDFとして記入を完了したフォーム4/ICCS

学校の1人目の志願者（つまり、志願者番号が最も若い人）のZIPファイルには、モデレーション（評価の適正化）のサンプルに選ばれた志願者を記載した、IBISの印刷物をスキャンしたコピーが含まれなければなりません。

各志願者について、教師は、トップレベルのフォルダーに、その得点を与えた説明をPDFファイルとして加えることが推奨されます。

モデレーターは、教師が評価したレベルをチェックするために、この学習成果物を再度採点します。学校はコピーを残さなければなりません。

B4.6.2.2 内部評価の最終的な採点結果

IBISの内部評価の選択項目に、最終的な得点（34点満点）を記録します。

B4.7 コーディネーターの要件の概要

以下は、コーディネーターが、「理科」の教師から提供を受ける必要のあるものの概要です。

学校内の締切日までに必要な資料	
生物、化学、物理 SLとHLを組み合わせる	IBISを通じてIBアセスメントセンターに提出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各志願者の予測スコアと内部評価の最終的な得点 モデレーターに提出 <ul style="list-style-type: none"> ・ フォーム4/IA ・ サンプルの各志願者用のフォーム4/ICCS ・ 各クラスと各レベル用のフォーム4/PSOW ・ サンプルの各志願者について教師が採点した、「個人研究」

学校内の締切日までに必要な資料	
デザイン技術 (SL) デザイン技術 (HL) (SLおよびHL用の別々のサンプル)	IBISを通じてIBアセスメントセンターに提出 ・ 各志願者の予測スコアと内部評価の最終的な得点 モデレーターに提出 ・ フォーム 4/IADT ・ サンプルの各志願者用のフォーム 4/ICCSDT ・ 各クラス用のフォーム 4/PSOWDT ・ サンプルの各志願者について教師が採点した、デザインプロジェクト
スポーツ・エクササイズ・健康科学 (SL)	IBISを通じてIBアセスメントセンターに提出 ・ 各志願者の予測スコアと内部評価の最終的な得点 モデレーターに提出 ・ フォーム 4/IASEHS ・ サンプルの各志願者用のフォーム 4/PSOWSEHS ・ フォーム 4/PSOW でそれぞれ目立つように印を付けたレベル (数値) に対応する研究および教師の指示
コンピューター科学 SLとHLを組み合わせる	IBISを通じてIBアセスメントセンターに提出 ・ 各志願者の予測スコアと内部評価の最終的な得点 モデレーターに提出 ・ サンプルの各志願者用のフォーム 4/ICCSCT ・ ZIPファイルとして保存された志願者の学習成果物と記録

B4.8 試験の資料

コーディネーターは、IBISで、IB資料の『物理資料集』と『化学資料集』、事例研究、および「コンピューター科学」用のIB資料 (英語版) 『*Approved notation for developing pseudocode* (擬似コード開発のための承認された表記法)』のマスターコピーを入手できます (これらの資料は、試験問題とともにハードコピーとして送付されることはありません)。志願者には、試験において関連する小冊子の、書き込みのされていないコピーを提供しなければなりません。「物理」の志願者は、試験問題 1、2、3 にIB資料『物理資料集』を必要とし、「化学」の志願者は試験問題 2 と 3 のみにIB資料『化学資料集』を必要とします。「コンピューター科学」の志願者は、試験問題 1 と 2 でIB資料 (英語版) 『*Approved notation for developing pseudocode* (擬似コード開発のための承認された表記法)』、HLの試験問題 3 で事例研究が必要です。

B5 グループ5 「数学」

B5 数学

B5.1 資料

ハンドブックの本項で提供される情報は、適切な「指導の手引き」と併せて読む必要があります。

2016年5月と11月の試験セッション	
資料名	発行日
I B 資料 (英語版) 『 <i>Mathematical studies SL guide</i> (「数学スタディーズSL」指導の手引き)』	2012年3月
I B 資料 (英語版) 『 <i>Mathematical studies SL formula booklet</i> (数学公式集——数学スタディーズSL)』	2012年3月に発行、2015年に更新改訂 (バージョン2)
I B 資料 (英語版) 『 <i>Mathematical studies SL teacher support material</i> (「数学スタディーズSL」教師用参考資料)』	2012年3月に発行、2015年1月に更新改訂
I B 資料 (英語版) 『 <i>Mathematical studies SL GDC teacher support material</i> (「数学スタディーズSL」グラフ電卓に関する教師用参考資料)』	2005年5月
I B 資料 『「数学SL」指導の手引き』	2012年3月
I B 資料 『数学公式集——数学SL』	2012年3月に発行、2015年に更新改訂 (バージョン2)
I B 資料 『「数学SL・数学HL」教師用参考資料』	2012年5月に発行、2015年1月に更新改訂
I B 資料 (英語版) 『 <i>Mathematics HL/SL GDC teacher support material</i> (「数学HL/SL」グラフ電卓に関する教師用参考資料)』	2005年5月
IB 資料 『「数学HL」指導の手引き』	2012年6月
I B 資料 『数学公式集——数学HL・発展数学HL』	2012年9月に発行、2015年に更新改訂 (バージョン2)
I B 資料 (英語版) 『 <i>Further mathematics HL guide</i> (「発展数学HL」指導の手引き)』	2012年6月

B5.2 最終締切日の概要： 2016年5月と11月の試験セッション

行動	提出先	最終締切日	方法／フォーム
「数学」の各科目について、予測スコアと内部評価の採点結果を提出	I B アセスメントセンター	2016年4月10日／ 2016年10月10日	I B I S
「数学」の各科目について、内部評価のサンプルとなる学習成果物を提出	モデレーター	2016年4月20日／ 2016年10月20日	フォーム 5/EXCS フォーム 5/PJCS

B5.3 「数学公式集」

各科目の I B 資料「公式集」（2012年に発行、2015年に更新改訂）のマスターコピーは I B I S で入手できます。「公式集」は、志願者がグループ 5 のすべての数学コースと試験で使用します。5月／11月の試験では書き込みのされていないコピーが用意されていなければなりません。

B5.4 内部評価

内部評価は、コースの間に志願者が完成した学習成果物に基づいて行われ、「発展数学 HL」を除く「数学」のすべての科目の要件です。合計得点のうち、20%がこの^{コンポーネント}評価要素に割り当てられます。志願者の成果物のサンプル提出を受けることで、I B は、学校にわたる共通の規準を得るために、教師による採点結果のモデレーション（評価の適正化）を行うことができます。サンプルは、最終的な評価の後、利用可能な学習成果物から選ばれます。

B5.5 科目特有の情報

B5.5.1 数学スタディーズ S L : プロジェクト

内部評価の要件

「数学スタディーズ S L」の評価用に提出されたプロジェクトは、コースのねらいと目的に関連する 7 つの評価規準に照らしてそれぞれ評価されます。これらの評価規準は、各レベルの「レベルの説明 (descriptor)」とともに、I B 資料 (英語版) 『*Mathematical studies SL guide* (「数学スタディーズ S L」指導の手引き)』に記載されています。

モデレーション（評価の適正化）のサンプル

モデレーション（評価の適正化）のためのサンプルの「プロジェクト」は、IBISが特定したものでなければなりません。各サンプルの「プロジェクト」について、カバーシートのフォーム 5/PJCS に記入します。

学校内に科目担当教師が2人以上いる場合は、各志願者の最終的な得点を決定する前に、評価規準について合意しなければなりません。すなわち、学校の内部評価を標準化する必要があります。

学校内の締切日までに、以下のものをコーディネーターに提出してください。

- ・ 内部評価の採点結果（および予測スコア）
- ・ 教師と志願者が署名し日付を入れた、個々のプロジェクトのカバーシートのフォーム 5/PJCS
- ・ サンプルの「プロジェクト」（コピーではなく原本）

「プロジェクト」のコピーを残しておくことが推奨されています。

B5.5.2 数学HL・数学SL：「探究」

「数学HL・数学SL」の評価用に提出された「探究（explorations）」は、コースのねらいと目的に関連する5つの評価規準にそれぞれ評価されます。これらの評価規準は、各レベルの「レベルの説明（descriptor）」とともに、対応する「指導の手引き」に記載されています。注意すべきことは、評価規準のうち4つは2つのコースで同じですが、5つ目（数学の活用）が異なることです。

モデレーション（評価の適正化）のサンプル

サンプルとなる「探究」は、IBISが特定したものでなければなりません。各志願者について、「探究」のカバーシートフォーム 5/EXCS に記入します。

学校内に科目担当教師が2人以上いる場合は、各志願者の最終的な得点を決定する前に、評価規準について合意しなければなりません。すなわち、学校の内部評価を標準化する必要があります。

学校内の締切日までに、以下のものをコーディネーターに提出してください。

- ・ 内部評価の採点結果（および予測スコア）
- ・ 教師と志願者が署名し日付を入れた、記入済みの「探究」のカバーシートフォーム 5/EXCS
- ・ サンプル「数学探究」（コピーではなく原本）

「数学探究」のコピーを残しておくことが推奨されています。

B7 「課題論文」(EE)

B7.1 現行の「指導の手引き」

ハンドブックの本項で提供される情報は、IB資料『「課題論文」(EE)指導の手引き』およびIB資料(英語版)『*Diploma Programme Coordinator's notes* (ディプロマプログラム・コーディネーターの覚書き)』と併せて読む必要があります。

2016年5月と11月の試験セッション	
資料名	発行日
IB資料『「課題論文」(EE)指導の手引き』	2010年12月(2013年5月第1回試験用)

B7.2 最終締切日の概要

行動	セッション	提出先	最終締切日	方法/フォーム
評価用「課題論文」(EE)の提出	2016年5月/ 2016年11月	IBISに記載された住所	2016年3月15日/ 2016年9月15日	志願者チェックリストと記入済みのカバーシート
予測スコアの提出	2016年5月/ 2016年11月	IBアセスメントセンター	2016年4月10日/ 2016年10月10日	IBIS

B7.3 規則

2016年5月と11月

以下の規則は取り消されました。

- ・「言語A：文学」の「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースの志願者は、その言語で「課題論文」(EE)に登録することができない。
- ・6カ月に再履を受ける志願者は、同じ科目に登録しなければならないという制限

以下の規則が適用されます。

- ・ディプロマ、コース、または再試験のカテゴリーで登録した志願者のみが、「課題論文」(EE)を提出できます。
- ・「課題論文」(EE)の評価を高くしたいと望む再試験の志願者は、修正した、または新しい「課題論文」(EE)を提出することができます。

- ・ I B 資格取得志願者の登録が、「課題論文」(E E) の要件で「履修取り消し (Withdrawn)」に変更された場合、志願者が他の科目の履修を取り消されたかどうかにかかわらず、カテゴリーがディプロマからコースに変更されます。
- ・ 「課題論文」(E E) について登録されていない科目や使用言語で提出された、評価用の「課題論文」(E E) は、評価されない場合があります。
- ・ 「課題論文」(E E) を提出する各志願者が、志願者が選んだ科目において適切な資格や経験をもつ学校の教師によって監督されることを保証するのは、学校の責任です。志願者は、1人の指導教員 (supervisor) が担当する必要があります。志願者の親類が指導教員の役割を引き受けることは認められていません。
- ・ 教師の監督下で「課題論文」を準備する時間の合計は5時間を超えてはいけません。
- ・ すべての指導教員は、ディプロマプログラムの「課題論文」(E E) の要件と、「課題論文」(E E) の準備および執筆に関して志願者を指導する責任に精通していなければなりません。指導教員と I B 資格取得志願者ともに、I B 資料『「課題論文」(E E) 指導の手引き』(2010年12月刊行) の関連セクションにアクセスできることが必要です。
- ・ 例外的な状況では、「課題論文」(E E) を完成する志願者が、学校外の専門家から指導を受けるかもしれませんが (例えば、「理科」や「言語」で)、いかなる場合も、志願者は、その学校の教師で、その志願者を担当する指導教員がつかなければなりません。この学校の指導教員は、「課題論文」(E E) の執筆について一般的なアドバイスを与えることが可能でなければならず、また、志願者の成果物が、本当に生徒本人が取り組んだものであることを確認する必要があります。学校外の指導監督者による指導が提供された場合、指導教員は、「課題論文」(E E) についてコメントするカバーシートの中でこの事実と言及し、どのような指導がどの程度の時間提供されたのかについての情報を含めなければなりません。
- ・ 「課題論文」(E E) は、当該試験セッション用として「課題論文」(E E) に利用可能なディプロマプログラムの科目の1つで提出し、評価規準を満たさなければなりません (科目の利用可能性のリストは、5月と11月の試験セッションで異なります)。「課題論文」(E E) を提出できる科目のリストは B7.4 の項に記載されています。
- ・ 志願者は、その志願者の6つのディプロマ科目の1つとして選択し、コーディネーターの承認を受けた科目については、「課題論文」(E E) を提出する必要はありません。しかし、志願者が親しんだ科目の本質と内容に従って執筆できるよう、志願者のディプロマ科目の1つからこれを選択することが奨励されています。
- ・ グループ1またはグループ2の科目の「課題論文」(E E) は、選択した言語で執筆する必要があります。グループ3からグループ6までの科目の「課題論文」(E E) はすべて、英語、フランス語、またはスペイン語で執筆します。しかし、「歴史」と「生物」については例外が認められており、ドイツ語で書くことができます。

- ・「課題論文」(EE) または「知の理論」(TOK) の成績がEである場合は、IB資格は授与されません。IB資格を得るには、これらの要件の両方で少なくともDの評価を受ける必要があります。

B7.4 科目の利用可能性

『「課題論文」(EE) 指導の手引き』の記述から、指導教員は、トピックの選択に関して生徒と話し合い、特に、的を絞った研究課題を組み立てる際の手助けをすることが求められます。IBは、志願者がトピックを選択する登録科目や、研究課題の提案についてアドバイスは行いません。

B7.4.1 グループ1

グループ1の「課題論文」(EE) は、最も得意とする言語が、「課題論文」(EE) に選択した「言語A」である志願者向きです。志願者は、「課題論文」がどのカテゴリーに関連するかをカバーシートに示さなければなりません(カテゴリー1、カテゴリー2、またはカテゴリー3)。

志願者がグループ1の「課題論文」(EE) を選択する場合は、関係する試験セッションの利用可能な「言語A：文学」または「言語A：言語と文学」のリストから選ばなければなりません。学校が記述試験の18カ月前に「言語A：文学」の科目に対して特別申請を提出し、これが指導科目として認定された場合、その学校の志願者は、その「言語A」の「課題論文」(EE) を、グループ1の「課題論文」(EE) として登録することが自動的に認められます。そのため、IBISを通じて「課題論文」(EE) の特別申請フォームを別に提出する必要はありません。

学校が特別申請を提出していない「言語A：文学」の科目の「課題論文」(EE) の提出を希望する志願者が学校にいる場合は、IBISを通じて、「**科目 (Subject)**」タブから「**事前通知要件 (Advance notice requirements)**」を開いて適切なフォームを提出することが必要です。IBアセスメントセンターは、この記入されたフォームを受け取り次第、関係するグループ1の言語で「課題論文」(EE) を提出できるかどうかを決定します。この決定は、その言語について別の学校から特別申請がなされているかどうか、またその言語を担当する試験官が「課題論文」(EE) の採点が可能であるかどうかに基づいて下されます。IBは、志願者が「特別リクエスト言語」で「課題論文」(EE) を提出できることを保証できません。そのため、志願者は、「課題論文」(EE) の代替の科目を考えることが奨励されています。

B7.4.2 グループ2

グループ2の言語の「課題論文」(EE)は、第二言語または付加言語の学習者向きです。志願者は、自分が選んだグループ1の科目の「言語A」で、グループ2の「課題論文」(EE)を提出することは認められません。志願者は、「課題論文」がどのカテゴリーに関連するかをカバーシートに示さなければなりません(カテゴリー1、カテゴリー2、またはカテゴリー3)。

グループ2の「課題論文」(EE)で使用可能な言語のリストは、5月と11月の試験セッションで使用可能な「言語B」および「初級外国語」(ab initio)を合わせたリストと一致します。グループ2の言語には、特別申請のサービスはありません。

5月か11月の試験セッション用に、試験での使用言語として、英語またはスペイン語の中で古典ギリシャ語または古典ラテン語を使うことは可能です。志願者が、古典ギリシャ語またはラテン語についての「課題論文」(EE)をフランス語で執筆したいと希望する場合は、コーディネーターは筆記試験の18カ月前にあたる**11月15日/5月15日**までに、IBから許可を得なければなりません。特別申請として許可を求めるためのオプションは、IBISで利用可能です。

B7.4.3 グループ3からグループ6

以下の表に掲載されたすべての科目については、2016年と2017年の試験セッションで、英語、フランス語、スペイン語で「課題論文」(EE)を執筆することができます。「生物」と「歴史」は、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語で書くことができます。

生物	数学
ビジネスと経営	音楽
化学	平和紛争解決学
コンピューター科学	哲学
ダンス	物理
デザイン技術	政治
経済	心理学
環境システムと社会	社会・文化人類学
映画	スポーツ・エクササイズ・健康科学
地理	演劇
歴史	美術
人権	世界の宗教
グローバル社会の情報技術	ワールドスタディーズ
文学とパフォーマンス	

B7.4.4 ワールドスタディーズ

ワールドスタディーズは、英語、フランス語、スペイン語の「課題論文」(EE)の科目として利用可能です。志願者をワールドスタディーズの「課題論文」(EE)に登録する場合は、志願者が選んだグローバルなテーマを示してください。テーマは以下のとおりです。

1. 科学、技術、社会
2. 文化、言語、アイデンティティー
3. 紛争、平和、安全
4. 平等と不平等
5. 健康と発達
6. 環境または経済の持続性

登録の時点で、志願者は、「課題論文」が根拠とするものを最もよく反映するグローバルなテーマを決定する必要があります。また、テーマは研究課題とともに、カバーシートの前の方で述べられるべきです。

コーディネーターは、「計画および進捗についての振り返り (*Reflections on Planning and Progress*)」フォームを使用するよう奨励されており、これはOCCの「課題論文」(EE)のページで入手可能です。このフォームは、「課題論文」(EE)の指導監督プロセスをサポートするために、2014年に学校が利用可能になりました。コーディネーターはこのプロセスを実施するよう奨励されており、これは2018年5月の試験セッションから必須となります。この記録プロセスによって、明らかに、新しい評価規準に取り組むことになり、新しい評価規準が既存の「総合的評価 (*holistic judgment*)」の規準 (規準K) に置き代わって、試験官に評価されるようになるでしょう。

B7.4.5 科目の変更

志願者が、登録された科目または使用言語でない、科目または使用言語による「課題論文」(EE)を提出する場合は、メールでIBアンサー (IB Answers) に連絡し、アドバイスを求めてください。IBISの試験官の通知の画面で適切な試験官がいると思える場合でも、「新しい」科目/使用言語による「課題論文」(EE)を試験官に送らないでください。

B7.5 「課題論文」(EE) カバーシートの記入

すべての「課題論文」(EE)は、志願者と志願者の指導教員が記入し署名したカバーシートとともに、試験官に提出しなければなりません。志願者または指導教員のどちらかが「課題論文」(EE)カバーシートに署名をしていない場合は、論文は受領されず、学校に返却される可能性があります。

志願者と指導教員はともに、「課題論文」(EE)と同じ言語でカバーシートに記入しなければなりません。これにはグループ1とグループ2の「課題論文」(EE)用のすべての言語が含まれます。

志願者が提出する「課題論文」は、ページを容易に抜き出したり、写真複写できるように、IBの「課題論文」(EE)用のカバーシートの中に確実に納めなければなりません。その際は、IBの「課題論文」(EE)のカバーシートを使用する必要があり、他のカバーシートは受理できません(例えば革表紙など)。多くの志願者が、「課題論文」(EE)の提出を誇りに感じるであろうことは理解できますが、「課題論文」(EE)の製本に対して追加点を与えることはありません。

志願者は、該当する場合は、提出する「課題論文」の κατηγοリーを示さなければなりません(グループ1、グループ2、およびワールドスタディーズのテーマ)。

B7.6 「課題論文」(EE)の提出

B7.6.1 「課題論文」(EE)の電子形式での提出

IBは、「課題論文」(EE)を含む、志願者によるすべてのコースワークのオンラインでの提出をめざして努力しています。その結果、2016年11月以降は、学校が「課題論文」(EE)をアップロードすることが要件となるでしょう。

B7.6.2 試験官の通知

「課題論文」(EE)を担当する試験官の通知は、筆記試験の約2カ月前にあたる**2月20日/8月20日**までに、IBISで発表されます。試験官の通知には、各科目の「課題論文」(EE)の採点のために学校に割り当てられた各試験官の名前と住所が記載されています(2つ以上の使用言語で「課題論文」(EE)を提出している場合は、1つの科目に2人以上の試験官が割り当てられることがあります)。

B7.6.3 「課題論文」(EE)を提出できない志願者

チェックリスト(または名簿)は、IBISの志願者登録のメニューで入手可能です。「課題論文」(EE)の各科目と使用言語について、チェックリストを印刷してください。「課題論文」(EE)を提出していないすべての志願者については、理由にかかわらず、その志願者の名前に対応するボックスに×印を入れてください。このチェックリストは、関係する科目の試験官に送付する「課題論文」(EE)の一式に含めます。

B7.6.4 試験官への「課題論文」(EE)の送付

それぞれの「課題論文」(EE)(カバーシートの中に入れたもの)は、**3月15日/9月15日**までに到着するように試験官に送ってください。可能であれば、「課題論文」(EE)は、試験官の通知を受け取った直後に、宅配業者を使用して送付します。それにより、試験官は、締切日のかなり前に「課題論文」(EE)を受け取ることができます。

すべての志願者が「課題論文」(EE)を提出した場合でも、上のB7.6.3の項で言及したチェックリストを同封してください。

コーディネーターは、「課題論文」(E E) が送付の途中に紛失したときのために、それぞれの「課題論文」(E E) のコピーを少なくとも1部残しておかなければなりません。

B7.7 予測スコアの提出

コーディネーターは、各志願者の「課題論文」(E E) の予測スコアを提出する必要があります。これらのスコアは、筆記試験の約3週間前の**4月10日**／**10月10日**までにIBIS上で入力します。「課題論文」(E E) の成績は、AからEまでで、Aが最高です。

B8 知の理論 (TOK)

B8.1 現行の「指導の手引き」

ハンドブックの本項で提供される情報は、I B資料『知の理論 (TOK) 指導の手引き』と併せて読む必要があります。

2016年5月と11月の試験セッション	
資料名	発行日
I B資料『知の理論 (TOK) 指導の手引き』	2013年4月

B8.2 最終締切日の概要

行動	セッション	提出先	最終締切日	方法/フォーム
評価用の「知の理論」の所定課題エッセイ (TOKエッセイ) のアップロード	2016年5月/ 2016年11月	I Bアセスメントセンター	2016年3月15日 / 2016年9月15日	I B I S
計画および進捗フォーム (TK/PPF) の提出	2016年5月/ 2016年11月	I Bアセスメントセンター	2016年3月15日 / 2016年9月15日	宅配業者またはメール TK-PPF@ibo.org で
知の理論 (TOK) の予測スコアおよびプレゼンテーションの採点結果の提出	2016年5月/ 2016年11月	I Bアセスメントセンター	2016年4月10日 / 2016年10月10日	I B I S
サンプルプレゼンテーションの計画の記録 (TK/PPD)	2016年5月/ 2016年11月	I Bアセスメントセンター	2016年4月20日 / 2016年10月20日	フォーム TK/PPD

B8.3 規則

B8.3.1 2016年5月と11月

- ・すべてのIB資格取得志願者は、1600語以内の「エッセイ」（小論文）を、当該試験セッション用に出題される6つの所定課題のうちの1つについて執筆し、提出しなければなりません。
- ・ディプロマ、コース、または再試験のカテゴリーで登録した志願者のみが、知の理論（TOK）に登録することができます。コースの志願者は、1回の試験セッションで、知の理論（TOK）に2回以上登録することはできません。
- ・知の理論（TOK）の評価を高くしたいと望む、再試験の志願者は、プレゼンテーションの点数を持ち越すか、新しいプレゼンテーションを行うことができます。
- ・知の理論（TOK）の評価を高くしたいと望む、再試験の志願者は、当該試験セッション用の所定課題に基づいたTOKエッセイを提出しなければなりません。
- ・IB資格取得志願者が、知の理論（TOK）の履修を取り消した場合は、他のすべての科目の履修を取り消していなくても、カテゴリーがディプロマからコースに変更されます。
- ・「課題論文」（EE）または「知の理論」（TOK）の成績がEである場合は、IB資格は授与されません。IB資格を得るには、これらの要件の両方で少なくともDの評価を受ける必要があります。

B8.4 知の理論（TOK）の使用言語

5月と11月の試験セッションにおける知の理論（TOK）の志願者は、使用言語として英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語（繁体字と簡体字）を利用できます。認定された使用言語のいずれかで、知の理論（TOK）に登録する場合は、IBによる事前の承認は必要ありません。

B8.5 外部評価：所定課題エッセイ（TOKエッセイ）

B8.5.1 トピックの選択

それぞれの試験セッション向けに、6つの所定課題が出題されます。所定課題は、5月の試験セッション向けには前年の9月1日（例えば、2016年5月の試験セッション用は2015年9月1日）、11月の試験セッション向けには同年の3月1日（例えば、2016年11月の試験セッション用は2016年3月1日）に発表されます。

所定課題は、OCCの知の理論（TOK）のセクションで入手できます。

所定課題についてのエッセイは、提示された題に照らして評価されるため、志願者は題を変更することができません。

TOKの6つの所定課題の新しいセットは、それぞれの試験セッション用に発表されます。すべての志願者（再試験を受ける生徒を含む）は、適切な試験セッション用の題に対応して「TOKエッセイ」を執筆しなければなりません。正しい所定課題の1つに従って書かれていないエッセイは、自動的に0点となります。2015年5月以降、新しいディプロマプログラム要件の実施に伴い、TOKの評価がEの志願者は、全体の得点に関係なく、IB資格は授与されません。各志願者が、必ず試験セッション用の正しい所定課題の1つに従ってエッセイを執筆するよう促すのは、学校の責任です。

志願者は、「TOKエッセイ」の評価に使用される評価規準について知っていなければなりません。

志願者は「TOKエッセイ」のどの部分にも、以下のものを挿入することはできません。

- ・ イラストや画像（エッセイの内容を裏づけるのに不可欠である場合を除く）
- ・ 名前（例えば、自分自身の名前、または学校や教師の名前）
- ・ 志願者セッション番号や個人コード
- ・ 学校のロゴ

B8.5.2 所定課題エッセイの提出

「TOKエッセイ」はすべて、ハードコピーとして試験官に送るのではなく、アップロードしなければなりません。

各試験セッションについては、IBIS上の新しい記事で、エッセイのアップロードを開始できる**1月／7月**の日付が発表されます。アップロードを終了する締切日は、筆記試験の約2カ月前にあたる**3月15日／9月15日**です。

B8.6 内部評価：プレゼンテーション

教師の関与は、ディプロマプログラムの評価プロセスの重要な要素です。この関与には、各志願者による「TOKプレゼンテーション」の採点結果の提出が含まれます。教師は、IB資料『**知の理論（TOK）指導の手引き**』の評価規準に従って、各プレゼンテーションを評価しなければなりません。評価規準のコピーを志願者が入手できるようにすべきです。評価は学習成果物に基づいて行い、成果物または参加が不完全であっても、採点しなければなりません。

B8.6.1 要件

各志願者は、コースの間に、個人または最大3人のグループで、クラスに対する口述プレゼンテーションを行わなければなりません。所要時間は約10分間とし、グループの場合は最長で約30分間とします。プレゼンテーションを行う前に、各志願者は、プレゼンテーション計画書TK/PPDの志願者のセクションに記入しなければなりません。グループ

プレゼンテーションの場合、各志願者は、同一の TK/PPD のコピーを提出する必要があります。

B8.6.2 フォーム TK/PPD の記入

プレゼンテーションは、TK/PPD をガイドとして使用し、知の理論（TOK）の教師によって評価されます。教師は TK/PPD に記入し完成します。2015 年 5 月以降、すべての学校は、**4 月 20 日 / 10 月 20 日**までに I B I S で TK/PPD のサンプルを提出することが必要になります。この提出に関する詳細は、I B I S で新しい記事として掲載されます。

B8.6.3 プレゼンテーションの採点結果の提出

4 月 10 日 / 10 月 10 日までに、各志願者のプレゼンテーションの教師による総合的な得点を I B I S で入力しなければなりません。

志願者が、知の理論（TOK）のプレゼンテーションを行うことができなかった場合は、I B I S で内部評価の採点結果を入力する際に「F」とします。

B8.6.4 内部評価のモデレーション（評価の適正化）

教師によるプレゼンテーションの採点結果は、モデレーション（評価の適正化）の対象となります。モデレーションは、アップロードされた TK/PPD からサンプルを抽出して行われます。このプロセスの目的は、教師の下した採点が TK/PPD の内容に見合ったものになっているかどうかを判断することにあります。

学校から提出されるサンプルの TK/PPD は、I B I S が特定したものでなければなりません。サンプルは I B I S を通じてアップロードします。

学校内に知の理論（TOK）の担当教師が 2 人以上いる場合は、各志願者の最終得点を決定する前に、規準について合意しなければなりません。すなわち、学校の内部評価を標準化する必要があります。

B8.6.5 プレゼンテーションの録画

毎回の試験セッションで、一部の学校に対し、プレゼンテーションの一部または全部を録画することが義務づけられる場合があります。学校は、以下の理由から選ばれる可能性があります。

- ・ 無作為。計画とパフォーマンスの関係性を調べるのが目的
- ・ 生徒が優れたプレゼンテーションを行っており、校長などの管理職や教師を対象とした研修の目的で使える可能性があるため
- ・ 異例と思われる結果が見られたため（例えば、前回の試験セッションで、プレゼンテーションの得点とエッセイの得点の間に通常ではない相関性が見られるなど）

要請がない限り、学校がプレゼンテーションを録画する必要はありません。ただし、複数の教師が評価にあたる場合に学校の内部評価を標準化するという目的で、録画が有益な場合があります。

B8.7 予測スコアの提出

コーディネーターは、プレゼンテーションとエッセイを組み合わせたパフォーマンスに基づいて、各志願者の予測スコアを提出する必要があります。これらのスコアは**4月10日／10月10日**までにIBIS上で入力します。

B9 創造性・活動・奉仕（CAS）

B9.1 現行の「指導の手引き」

ハンドブックの本項で提供される情報は、IB資料『「創造性・活動・奉仕」（CAS）指導の手引き』と併せて読む必要があります。

2016年5月と11月の試験セッション	
資料名	発行日
IB資料『「創造性・活動・奉仕」（CAS）指導の手引き』	2008年3月

B9.2 最終締切日の概要

行動	セッション	提出先	最終締切日	方法／フォーム
新しい学校のみ： CASプログラム完了フォームの提出	2016年5月／ 2016年11月	地域事務所	2016年6月1日／ 2016年12月1日	IBIS
個々の志願者が CASを完了したか どうかをIBに通知	2016年5月／ 2016年11月	IBアセス メントセン ター	2016年6月1日／ 2016年12月1日	IBIS
個々の志願者が CASを完了したこ とをIBに通知する 最終日	2016年5月／ 2016年11月	IBアセス メントセン ター	2016年6月1日／ 2016年12月1日	IBIS

B9.3 規則

B9.3.1 2016年5月と11月

- ・ 学校は、合意したCASのねらいを満たし、IBの認定を受けた活動／プロジェクトのプログラムを提供しなければなりません（CASプログラムの設計、プログラムの提出、および志願者の評価に関する詳細は、IB資料『「創造性・活動・奉仕」（CAS）指導の手引き』に記載されています）。

- ・すべてのIB資格取得志願者は、「創造性・活動・奉仕」として知られる活動／プロジェクトのプログラムに取り組む必要があります。CASの要件が満たされない場合はIB資格が授与されません。
- ・CASは現在、IB資格取得志願者に加えて、単科履修（コース）志願者（DP Course Candidates）も履修できます。
- ・志願者は、試験セッションにおいて2つ以上のCASプログラムに登録することができません。
- ・志願者は、成績発表の後、CASの要件を完了するために最長1年まで活動期間を延長することができます。

B9.4 CASプログラムの承認

新たに認定された学校がCASプログラムのアンケート（フォームCAS/PQ）に記入して地域事務所にそれを提出し、承認を得る必要はなくなりました。そのため、このフォームはハンドブックから除かれました。新しい学校認定プロセスに組み込まれています。したがって、CASの実施については5年ごとに評価されます。

B9.5 CASのサンプリング

毎年、地域事務所は、何校かの学校に対し、3人のIB資格取得志願者のCAS記録の無作為標本を提出するように求めます。CASのサンプリングのために選ばれた学校は、ウェブプラットホームを通じてオンラインでCAS記録を提出します。学校が、サンプル志願者のCASの記録を、定期的なモニタリングプロセスの一部として地域事務所に提出するように求められた場合、必要となる記録は以下のとおりです。

- ・「CAS進捗フォーム」[IB資料『「創造性・活動・奉仕」(CAS)指導の手引き』「付録」の見本Aを参照]
- ・CASの個々の志願者の「完了フォーム」[B資料『「創造性・活動・奉仕」(CAS)指導の手引き』「付録」の見本Bを参照]
- ・志願者の進行中の記録のサンプル（最多で10ページ）
- ・これらのサンプルページ（これは例えば、ジャーナルページ、電子ログの印刷、ウェブサイトへの参照、ブログサイト、ビデオや録画されたインタビューへのリンクなどが可能です）には、取り組んでいる主要な活動のリストと、「計画」および「振り返り」の証拠エビデンスが示されている必要があります。いくつかの活動について、何が、なぜ、どのようにして起こり、その価値は何で、そこから志願者が何を学んだかについて、読む人がわかるようなものである必要があります。

オンラインのCASマネジメントシステムを利用している学校は、オンラインCASマネジメントシステムで生徒の記録にアクセスするための許可をIBに与える手紙を、IB地域事務所に提出しなければなりません。手紙のテンプレートは、オンラインCASマネ

ジメントシステムの提供者から提供されるべきです。学校が詳細を知りたい場合は、各地域事務所に連絡する必要があります。

コーディネーターは、提出したサンプルに関して質問があった場合に備え、裏づけとなる他の資料を**12月30日／6月30日**まで保管しておく必要があります。定期モニタリング、またはIBが認定後5年ごとに実施する公式の評価プロセスの一部として、グローバルセンターが個々の志願者の記録一式を見ることを要求する場合があります。

B9.6 CASのモニタリング

地域ディレクターまたは正式の代表者は、モニタリングプロセスの一貫として、いつでも学校を訪問したり、CAS記録を見ることを要求することができます。これは、地域事務所が率先して行う場合もあれば、学校による要請に従って行う場合もあります。学校は、CASの記録を集中的に保管しなければなりません。これらの記録は、学校の試験セッションの後6か月間は、地域事務所の要請に応じて利用できる状態にしておく必要があります。

B9.7 CASプログラムの評価と記入

学校は、IB資料『「創造性・活動・奉仕」(CAS) 指導の手引き』に記載されたパフォーマンスの規準に従って、志願者のCAS活動とパフォーマンスを評価する責任があります。コーディネーターは、ディプロマの学年の**6月1日／12月1日**までに、IBIS上で適切な電子的フォームに記入することで、志願者がCASプログラムを完了したかどうかをIBオフィスに通知しなければなりません。

ディプロマまたはコースの学年の**6月1日／12月1日**までにCASの要件を完了できない志願者は、CASの完了のために、さらに1年間だけ猶予が認められています。この追加の年は、成績発表の11か月後、**6月1日／12月1日**に期限が切れます。この1年の猶予期間は、CASに再試験のカテゴリーがないために設定されているものです。